



# 平成 30 年度 体験活動プログラム 活動報告

体験型活動ワーキンググループ

平成 31 年 3 月 31 日

## 目次

I	体験活動プログラム実施概要.....	1
II	体験活動プログラム活動報告.....	3
III	体験活動プログラム活動報告会.....	36
IV	付録	
	・体験活動プログラム概略.....	40

# I 体験活動プログラム実施概要

## ●概要

学部前期・後期課程の学生を対象とし、大学生活とは異なった考え方や発想、行動様式又は価値観と触れ合うための多様な形態と内容のプログラムを提供するものです。

平成 24 年度に「体験活動に関するワーキンググループ」を設置し、平成 24 年度には 176 名が活動に参加、さらに平成 25 年度以降は研究室体験活動プログラムを加え、毎年多くの学部学生を様々な体験の場に送り出しています。平成 30 年 4 月からは全学委員会である学生委員会の下に設置された「体験型活動 WG」において、引き続き、多様な体験活動を提供しています。

## ●平成 30 年度体験活動プログラム実施データ

### <プログラムの件数および募集人数>

○ 提供プログラム数：107 件、活動実施プログラム数：92 件、募集人数：690 名

区分	プログラム提供件数	プログラム実施件数	募集人数
国内プログラム	64 件(60%)	54 件(59%)	403 名(58%)
海外プログラム	23 件(21%)	22 件(24%)	186 名(27%)
研究室プログラム	20 件(19%)	16 件(17%)	101 名(15%)
全プログラム	107 件(100%)	92 件(100%)	690 名(100%)

### <出願、参加状況>

- 全プログラムでの総募集人数 690 人に対し、出願者数は 703 名(102%:募集人数比)、出願者のうち、参加者数は 428 名(61%:出願者数比)。
- 国内プログラムは総募集人数 403 名に対し、出願者数は 262 名(65%:募集人数比)、出願者のうち、参加者は 213 名(81%:出願者数比)。
- 海外プログラムは総募集人数 186 名に対し、出願者数は 369 名(198%:募集人数比)、出願者のうち、参加者は 165 名(45%:出願者数比)。
- 研究室プログラムは総募集人数 101 名に対し、出願者数は 72 名(71%:募集人数比)、出願者のうち、参加者は 50 名(69%:出願者数比)。

区分	総募集人数	出願者数	参加者	不採択者
国内プログラム	403 名	262 名 <65%>	213 名 《81%》	49 名 《19%》
海外プログラム	186 名	369 名 <198%>	165 名 《45%》	204 名 《55%》
研究室プログラム	101 名	72 名 <71%>	50 名 《69%》	22 名 《31%》
全プログラム	690 名	703 名 <102%>	428 名 《61%》	275 名 《39%》

< > 内は募集人数との比率、《 》内は出願者数との比率

なお、プログラムに出願し、不採択となった者が別のプログラムに出願しているため、出願者数は延べ数を示す。

また、研究室プログラムについては複数の申請が可能となっており、出願者数及び参加者数は延べ数を示し、不採択者数には採択後に参加を辞退した者及び活動中止となったプログラムに参加を予定していた学生の数を含む。

<採択者の属性>

◆男女別内訳

○ 参加者 428 名の男女別内訳は、男子学生が 257 名(60%)、女子学生が 171 名(40%)。

	男子学生	女子学生	計
参加者の男女別内訳	257 名 (60%)	171 名 (40%)	428 名 (100%)

◆学年別内訳

○ 参加者 428 名のうち、学部前期課程学生は 214 名(50%)、学部後期課程学生は 214 名(50%)。

○ 参加者 428 名の学年別内訳は、1 年生 102 名(24%)、2 年生 112 名(26%)、3 年生 145 名(34%)、4 年生 65 名(15%)、5 年生 4 名(1%)、6 年生 0 名(0%)。

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	男子	女子
法			19 名	19 名			38 名	22 名	16 名
医			11 名	4 名	4 名		19 名	11 名	8 名
工			21 名	8 名			29 名	21 名	8 名
文			16 名	4 名			20 名	5 名	15 名
理			13 名	4 名			17 名	10 名	7 名
農			16 名	7 名			23 名	13 名	10 名
経済			14 名	10 名			24 名	18 名	6 名
教養	102 名	112 名	12 名	3 名			229 名	141 名	88 名
教育			12 名	5 名			17 名	9 名	8 名
薬			11 名	1 名			12 名	7 名	5 名
計	102 名	112 名	145 名	65 名	4 名		428 名	257 名	171 名

教養学部欄の「1 年」、「2 年」の欄は、前期課程の学生を示す。

◆学部前期課程学生の科類別内訳

	文一	文二	文三	理一	理二	理三	計
1 年	18 名	10 名	23 名	28 名	20 名	3 名	102 名
(国内)	9 名	5 名	16 名	10 名	9 名	0 名	49 名
(海外)	8 名	2 名	4 名	11 名	7 名	3 名	35 名
(研究室)	1 名	3 名	3 名	7 名	4 名	0 名	18 名
2 年	17 名	14 名	24 名	32 名	20 名	5 名	112 名
(国内)	9 名	8 名	15 名	14 名	8 名	0 名	54 名
(海外)	8 名	6 名	7 名	12 名	6 名	5 名	44 名
(研究室)	0 名	0 名	2 名	6 名	6 名	0 名	14 名
計	35 名	24 名	47 名	60 名	40 名	8 名	214 名

## II 体験活動プログラム活動報告

国内プログラム名称		ページ数
1	療育を知ろう	4
2	東大こだま分教室の学習支援	4
3	さいかち学級の学習支援(品川区立清水台小学校)	4
4	そよ風分教室の活動支援	5
5	地域包括ケア体験プログラム	5
6	東大病院入院中の難病の子どもの家族を支援するドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのインターンシップ	5
7	石垣島白保のサンゴ礁調査 赤土流出のモニタリングと現地文化体験	6
8	種子島のアカウミガメ保全調査	6
9	高校魅力化プロジェクト～超人口減少・少子高齢化・財政難の離島中山間地域で学習支援と課題発見・解決～	6
10	困難を抱える子ども達の自然体験活動をサポート！～海で・山で・川で～	7
11	子ども達の自然体験活動をサポートするリーダーにチャレンジ！～山・海・川・湖でダイナミックな体験を～	7
12	フル・インクルージョン教育を実践する公立小学校でのゲスト・ティーチャー体験	7
13	～復興まちづくりのイベント運営体験～	8
14	日本語教室でのボランティア	8
15	日本の工学とフランスの医学が連携して最先端医療技術を開発している異分野間国際共同研究を知ろう	8
16	学術出版の体験的学習	9
17	陶板複製名画美術館を体験する	9
18	地方高校 教育活性化計画	9
19	農家に泊まろう！～農林業のフロンティア・みなかみで一次産業の可能性を考える～	10
20	JICAの国内研修現場で国際協力を知る	10
21	誰も知らない京都を作り出せ！～東大生しかつけない旅行プラン@KYOTO～	10
22	「好き」だけで終わらせない！～自らの手でファッションの未来を創ろう～	11
23	生態系・自然環境を守るとは？自然保護を現場から考える	11
24	教員の働き方改革における課題と解決策を考える	11
25	科学技術大国ニッポンの未来を担う知識プラットフォームでの武者修行！	12
26	測量船による海洋観測実地体験	12
27	犯罪被害者支援に関する事業の実施	12
28	地域密着型再生可能エネルギー系ベンチャー企業でのインターン@東北	13
29	学術成果の国際発信を現場で体験：あなたもUTokyo FOCUS 編集部の一員に！	13
30	今地方の企業が面白い！地域に根づく中小企業の魅力に触れるシゴト旅	13
31	加賀温泉郷まるごとキャンパス体験	14
32	カンキツの収穫・販売体験から中山間地域の底力を考える	14
33	文化ワークショップを基本とした過疎・高齢地区のまちづくり体験プロジェクト	14
34	おじゃり申せ種子島！宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム	15
35	おじゃり申せ種子島！宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム(冬編)	15
36	農業・牧場作業体験@北海道	15
37	どっぷりディープな農業・漁業体験(DDNG)	16
38	希望学プロジェクト ふくい体験プログラム(池田町)	16
39	中山間地域を見る・感じる・考える～北海道鹿町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう	16
40	都内でも農林作業フィールドワーク体験	17
41	伝統工芸木炭生産技術保存会とともに伝統工芸に必要な酸河炭を焼く	17
42	熊本サプライズプロジェクト U-tokyo	17
43	聖地熊野の歴史文化と自然を体験しつつ、新宮市の文化行政を学ぶ	18
44	山羊、豚、牛、馬の世話と乗馬を体験しよう	18
45	癒しの森の森林管理～おじいさんは山へ柴刈りに～	18
46	森が社会に貢献する～持続可能な森づくりへの挑戦～	19
47	伊豆の体験活動 一南伊豆という地域との連携に学ぶ～	19
48	北海道の遺跡博物館における学芸員体験と冬のオホーツク文化体験	19

海外プログラム名称		ページ数
1	中国訪問 + キャンパスツアーと学生交流	22
2	上海および上海近郊の地方都市を中心とした国際交流体験活動	22
3	大学・企業・文化体験 in 韓国2018年 一韓国を知る、韓国から日本を見る一	22
4	シンガポールでビジネスを学んでみよう	23
5	医学と平和	23
6	新興国インドでの体験活動 ～インド赤門会との交流・インド工科大学(IIT)日本語授業サポート～	23
7	スリランカでSDGsフィールドワーク体験“SDGs Field work experience in Sri Lanka”	24
8	Healthy Humpbacks(ザトウクジラの健康調査)	24
9	TOPS2018 (Tokyo Oxford Programme of Summer 2018)	24
10	英国ロンドン、海外で働くとは	25
11	フランスEcole Polytechniqueにおける研修(理系)	25
12	VE_italia・Veneto Experience	25
13	スウェーデン王立工科大学(KTH)での国際交流活動体験 日本語授業サポートと企業訪問	26
14	サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動	26
15	アラブ首長国連邦の「いま」: 沸騰都市ドバイ、未来都市マサダール、石油都市アブダビ	26
16	ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション	27
17	GTL Summer Intern for Systems Method Experience at MIT	27
18	アメリカで仕事することの素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう	27
19	コロンビア大学所属東大卒業生の教授、研究者、学生を訪問・ディスカッション	28
20	ニューイングランド有機農場 での Community Supported Agriculture 体験(米国)	28
21	オーガニック農場 での Sustainable agriculture 体験(米国)	28
22	世界の情報発信の中心地、ニューヨークの脈動を体感してみよう	29

研究室プログラム名称		ページ数
1	再生医療の研究開発に触れる	30
2	「医の知」に触れる～手術とは何か？体内臓器を探ってみましょう！	30
3	先端的蛍光イメージング技術を用いた脳科学・神経科学研究体験	30
4	生体分子から動物個体まで～生物化学の研究体験	31
5	農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定	31
6	発達障害のある子どもを対象とした認知心理実験の現場体験	31
7	脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い	32
8	クラスター計算機の試作と並列計算	32
9	環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ	32
10	演習環境をもちいたサイバーセキュリティ体験活動	33
11	光学・量エレ系研究室短期体験	33
12	量子力学・表面科学短期体験	33
13	水循環・水資源研究短期体験	34
14	DO-IT(Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology) Japan 2018 夏季プログラム	34
15	知能移動ロボットの行動と制御	34
16	植物バイオテクノロジー体験	35

## 【国内プログラム】

### 01. 療育を知ろう

活動内容は診療見学、リハビリ見学、通所見学の三つで、診療診察は、発達障害が疑われる児童の評価、診断、治療が主であった。療育センターの意義は、ただの治療の場ではなくむしろ患者が安心して過ごせる場所、安心して頼れるところになることを目指しているのだろうという印象を持った。治療の費用や施設・人材の不足、医師が科によって偏在するなどの問題や、行政や自治体ごとの課題を、少しなりとも見ることができた。療育分野の現状は非常に厳しく、行政による更なる人的、金銭的支援が行われるべきであると強く感じた。



院長先生と

日 程： 2018/8/1(水)-8/14(火)  
参加学生： 2名  
活動場所： 東京都八王子市 島田療育センターはちおうじ  
備 考： 島田療育センターはちおうじ  
<http://www.shimada-ryoiku.or.jp/shima8>

### 02. 東大こだま分教室の学習支援

東京大学医学部附属病院入院中の子供達の為の病院内分教室で、学習のアシスタントとして活動した。授業中に一緒に問題を解いたり、体育の授業を一緒に行ったりした。また、イベントに参加し、交流を深めた。自身が今まで知らなかった病院内分教室という場に直にふれ、病児の学習支援のあり方、ボランティアの行い方、人との関わり方など、広い範囲・領域で考えることが多かった。手応えと難しさを感じた活動であった。



東京大学医学部附属病院

日 程： 2018/8月下旬-2019/3月、各自定められた日程  
参加学生： 3名  
活動場所： 東京大学医学部附属病院東大こだま分教室(本郷キャンパス)  
備 考： 東京都立北特別支援学校 東大こだま分教室  
<http://www.h.u-tokyo.ac.jp/kodama/top/top.htm>



こだま分教室

### 03. さいかち学級の学習支援(品川区立清水台小学校)

品川区立清水台小学校昭和大学病院内さいかち学級において、入院中の小学生の学習支援を行った。具体的には授業の補助を行い、計算ドリルや漢字の勉強を手伝ったり、将棋を指したりするなどして、子供達とふれあった。子供達の生き生きとした様子に、励まされる事もあり、先入観などもたずに人と向き合う大切さを感じた。自身の目指す方向の先にいる子供達、関係者の存在の大きさを認識した。

日 程： 2018/8月下旬-2019/3月、定められた日程  
参加学生： 1名  
活動場所： 昭和大学病院さいかち学級(東京都品川区)  
備 考： さいかち学級  
<http://www.showa-u.ac.jp/SUH/guide/saikachi/>  
NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」  
<http://www.nhk.or.jp/professional/2011/0124/index.html>

#### 04. そよ風分教室の活動支援

国立成育医療研究センター内の院内学級 そよ風分教室で、学習の補助を行ったり、体育の授業で一緒にボール遊びを行ったりした。子供達の年齢は小学生から高校生まで幅広く、また先生方との関わりもあり、視野が広がったのを感じた。また、「学ぶ」ということの大切さ、価値を改めて認識した。医療、教育という領域だけで考えるのではなく、社会を多面的に考えることの必要性を強く感じた。

日 程： 2018/8月-2019/3月、各自定められた日程

参加学生： 2名

活動場所： 国立成育医療センター そよ風分教室

備 考： 東京都立光明学園 <http://www.komeigakuen-sh.metro.tokyo.jp/>

国立成育医療研究センター <http://www.ncchd.go.jp/hospital/support/soyokaze.html>

国立成育医療研究センター「もみじの家」事業室 <http://www.home-from-home.jp/>

#### 05. 地域包括ケア体験プログラム

2組に分かれて活動を行った。1組は千葉県柏市の地域包括ケアとの取り組みについて家庭医や研究者からお話を伺い、実際に訪問介護施設や介護サービスを受けているお宅に同行させていただいた。もう1組は神奈川県鎌倉市を中心に訪問看護ステーションに伺い、訪問診療・看護の見学を行った。地域と共に、関わる全員が元気に前向きに歩めることを目指した「場づくり」を目指す体制を見て、家族に負担が大きく、閉鎖的になりがちな現在の日本の介護の現状を変革する新しい兆しを見ることができた。

日 程： 2018/7月-2019/3月、各自定められた日程

参加学生： 2名

活動場所： 千葉県柏市、神奈川県鎌倉市

備 考： 柏市：長寿社会に向けたまちづくり

～地域包括ケアシステムの具現化に向けて～

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/060200/p011002.html>

IOG 東京大学高齢社会総合研究機構

<http://www.iog.u-tokyo.ac.jp>

#### 06. 東大病院入院中の難病の子どもを家族を支援するドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのインターンシップ

ドナルド・マクドナルド・ハウス東大において、小児難病患者を抱える家族を支援するボランティア活動を行った。主業務はハウスキーピング、事務、募金活動であり、病院内の見学やハウス運営に関する講義の受講なども行った。活動を通して、今まで知ることのなかった社会の一面を知り、支援のあり方を考えるきっかけになった。

日 程： 2018/7月-2019/1月

参加学生： 2名

活動場所： ドナルド・マクドナルド・ハウス 東大

備 考： 公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン

ドナルド・マクドナルド・ハウス 東大

<http://www.dmhcj.or.jp>



ドナルド・マクドナルド・ハウス 東大

## 07. 石垣島白保のサンゴ礁調査 赤土流出のモニタリングと 現地文化体験

沖縄県の石垣島で、サンゴ礁の保全作業を行った。シュノーケルで実際に海に潜り、海底の砂を採取して、珊瑚礁生態系に影響を与えている陸上から流入した赤土の堆積量を計測した。現地滞在中はホームステイを体験し、住民の生活や伝統、海との関わりなどについて、話を伺った。フィールドワークを通して、サンゴ礁保全に必要な測定の方法を知ることができた。また、環境保全においては、地域の生活や伝統といった側面の関わりが重要であり、考察していかなければならないことであることを実感した。



サンゴ調査

日 程： 2018/9/6(木)-9/9(日)  
参加学生： 1名  
活動場所： 沖縄県石垣市白保  
備 考： 認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン  
<http://www.earthwatch.jp/index.html>

## 08. 種子島のアカウミガメ保全調査

鹿児島県種子島で、ウミガメの生態や保全についてレクチャーを受け、実際に砂浜で孵化したアカウミガメを観察したり、個体の状況を記録した。ウミガメは砂浜に掘られた穴の中で孵化し、大量の砂をかき分けて地上にでる。その行程だけでも1週間ほどかかる場合があることを学び、生物が生きていくことの過酷さを知った。プログラムには研究者、社会人の方々も参加するため、いろいろなお話を聞くことができ、自身の将来についても考えるきっかけにもなった。



アカウミガメの調査

日 程： 2018/8/4(土)-8/6(月)、もしくは8/6(月)-8/8(水)  
参加学生： 2名  
活動場所： 鹿児島県西之表市  
備 考： 認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン  
<http://www.earthwatch.jp/index.html>

## 09. 高校魅力化プロジェクト～超人口減少・少子高齢化・財政難の 離島中山間地域で学習支援と課題発見・解決～

参加学生は4地域(北海道 利尻町、愛媛県 弓削島、熊本県 甲佐町、沖縄県 今帰仁村)に分かれて活動を行った。高校内あるいは隣接する公営塾に通う高校生への学習支援という主な活動に加えて、高校の先生方や塾のスタッフから請われて自身の受験生活、大学生活を高校生に語る機会が設けられた。近隣に大学が無い地域の高校生に進路への視野を広げさせたり、勉強に興味を持たせたりすることに苦心する反面、高校生からの瑞々しいフィードバックに学ぶことが多く、その熱量に心を動かされた三週間を過ごした。



高校での講演発表(弓削)

日 程： 2018/8月-9月の3週間  
参加学生： 6名  
活動場所： 北海道:利尻町、愛媛県:弓削島、熊本県:甲佐町、  
沖縄県:今帰仁村  
備 考： 株式会社Prima Pinguino  
<http://pripin.co.jp/>



公営塾の生徒さんと(利尻)

## 10. 困難を抱える子ども達の自然体験活動をサポート！～海で・山で・川で～

---

ひとり親家庭の子ども達に自然や生活といった体験活動を提供する国立赤城青少年交流の家のプログラムに参加し、10人ほどの子ども達のグループリーダーを務めた。他に参加している大学生のボランティアと共に、子ども達の面倒を見ながら、自然体験やゲーム、調理などを楽しんだ。様々な立場の人と接する機会となり、視野を広げ、自分の新たな一面を発見した。自身の将来設計についても思いを巡らせるような体験活動であった。

日 程： 2018/8/24(金)-8/25(土)  
参加学生： 1名  
活動場所： 群馬県前橋市  
備 考： 国立青少年教育振興機構 <http://www.niye.go.jp/>

## 11. 子ども達の自然体験活動をサポートするリーダーにチャレンジ！～山・海・川・湖でダイナミックな体験を～

---

子ども達がキャンプ、ハイキング、仙丈ヶ岳登山を体験するプログラムに参加し、班のリーダーとして、子ども達と一緒に活動を行った。様々なバックグラウンドを持つ子ども達や他のボランティアとの試行錯誤しながらの共同生活で、いろいろな気づきがあり、子ども達が短期間で変化や成長をとげるところを間近にみる事ができた。子ども達が登山を好きになってくれたこともうれしい体験であった。

日 程： 2018/8/4(土)-8/13(月)  
参加学生： 1名  
活動場所： 長野県伊那市  
備 考： 国立青少年教育振興機構 <http://www.niye.go.jp/>

## 12. フル・インクルーシブ教育を実践する公立小学校でのゲスト・ティーチャー体験

---

フル・インクルーシブ教育が行われている大阪市立大空小学校にて体験活動を行った。大空小学校では「学校に訪れる人は全員、ゲストティーチャーになる」という約束があり、活動期間中は参加学生一人一人がゲストティーチャーとして児童と接した。多様な児童にそれぞれラベルを付けず、みんなで学び合う取り組みの中に飛び込んで、毎晩のミーティングで自分が注目して関わった子どもたちのこと、その日の振り返りや気づきを共有して次の日に備えた。児童同士の関わり合いや地域の人と共に歩んでいる学校の実際の日々を体験したことで、今までの教育観が大きく開かれる経験となった。

日 程： 2018/9/3(月)-9/5(水)  
参加学生： 15名  
活動場所： 大阪市立大空小学校(大阪市住吉区)  
備 考： 大空小学校  
<http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e731673>  
「みんなの学校」大空小学校を取り上げたドキュメンタリー映画  
<http://minna-movie.jp/>



### 13. ～復興まちづくりのイベント運営体験～

震災後、復興公営住宅にこもりがちな高齢者の方が集う場を提供したいという市民発のイベント、「ゆかたで夕涼み」の準備や運営に携わった。釜援隊の方に釜石市内外の被災現場を案内していただき、現在の復興状況について学んだ。震災の語り部の方からの話を伺い、これまでどこか遠くに感じていた震災を間近に感じ、被災地に来た意味を知った。震災から7年が経った今、釜石では復興から地方創生へと課題が移行していることを学んだ。



イベント「ゆかたで夕涼み」

日 程： 2018/8/1(水)-8/14(火)  
参加学生： 2名  
活動場所： 岩手県釜石市近郊  
備 考： 釜援隊 <http://kamaentai.org/>  
釜石市参考資料(岩手大学講義資料)  
<http://www.slideshare.net/kaishii617/20131031whatisresilienceiwateuniv>

### 14. 日本語教室でのボランティア

大学院工学系研究科日本語教育部門主催の留学生を対象とした日本語教室で、日本語を学ぶ授業に参加し、学習を手伝ったり、イベントに参加して留学生と交流を深めた。日本語を教えることで、改めて日本語や日本の文化を学ぶ機会にもなった。臆せず、人と交流すること、自分の思いを伝えることの重要性を認識し、自分の成長を感じた。国際交流に関わる自信も養うことができた。

日 程： 2018/9月-2019/1月、各自定められた日程  
参加学生： 7名  
活動場所： 東京大学大学院工学系研究科(工学部8号館)  
備 考： 工学系研究科日本語教育部門 <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>

### 15. 日本の工学とフランスの医学が連携して癌先端医療技術を開発している異分野間国際共同研究を知ろう

生産技術研究所内の統合バイオメディカルシステム国際研究センターに関係する、定量生物学の小林研究室、臓器・生体システム工学の酒井研究室、医用バイオ工学の松永研究室を訪れた。それぞれの先生方が取り組んでいる現在の研究内容、研究の方法、方向性についてについて何うとともに、包括的に「研究とは」ということについてお話し頂いた。学問の枠組みを超えた学際的研究分野があること、先鋭的な研究は分業化していること、異なる学問分野間の共同研究について新たな知見を得て、研究や進路に対して自分の視野・興味が大きく広がる機会となった。

日 程： 2018/8月-12月、週に1、2日  
参加学生： 1名  
活動場所： 東京大学 生産技術研究所  
備 考： Information of LIMMS  
[https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/research/department\\_center/limms/](https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/research/department_center/limms/)

## 16. 学術出版の体験的学習

活動の前半では、東京大学出版会の諸部局の活動内容や業界全体の概要に関するレクチャーを受け、出版業務全体についての理解を深めた。後半は編集業務に携わる職員の指導のもと、自分が作ってみたい本について実際に企画書を作成し、本の内容や著者、ページ数や価格なども含め、活動の最終日にプレゼンテーションを行った。企画案を作成する合間には、校正や目次作成などの編集作業の体験や、印刷会社や製本会社、取次企業等の訪問も行った。

日 程： 2018/8/27(月)-9/14(金)  
参加学生： 3名  
活動場所： 一般財団法人東京大学出版会(駒場)  
備 考： 一般財団法人東京大学出版会 <http://www.utp.or.jp/>



編集作業の様子



企画発表会

## 17. 陶板複製名画美術館を体験する

日本有数の美術館である大塚国際美術館において、美術館の取り組みを学びながら、1.写真SNSへの投稿による広報発信体験、2.大学生世代向け美術館MAP制作体験、3.アートコスプレ企画の運営サポートと衣装着用での作品解説、の三つの体験グループに分かれてそれぞれ体験活動を行った。各グループ毎に美術展示の切り取り方は異なるものの、「自分が美術館の来訪者だったらどのように大塚美術館を観覧するか」という視点を大事にして、特色のある展示をどう来訪者へ届けるか、苦労したり、時には楽しんだりしながらも工夫して取り組んだ。

日 程： 2018/8/24(金)-8/26(日)  
参加学生： 10名  
活動場所： 大塚国際美術館(徳島県鳴門市)  
備 考： 大塚国際美術館 <http://www.o-museum.or.jp/>



大塚美術館 外観



アートコスプレ企画  
レンブラントの絵画からコック隊長

## 18. 地方高校 教育活性化計画

千葉県鴨川市にある、海が見える私立高校で寮に宿泊しながら夏季休業期間中の教員の業務補助体験を行った。学校の再建の歴史を伺いながら、学習会と体験入学など中学生に向けた学校案内などに参加して教員業務に携わるとともに、学校と地域が掲げる「教育の活性化」「地元の若者人口の流失減少」のための教育改革推進について鴨川市教育委員会の方から伺った。人口流出、教育活性など東京を始めとする人口が多い首都圏ではあまり実感が無いテーマであったが、地域の方や先生方からお話や実状を伺い、自身の教育観が相対化される経験となった。

日 程： 2018/8/1(水)-8/4(土)  
参加学生： 1名  
活動場所： 文理開成高校(千葉県鴨川市)  
備 考： 文理開成高校 <http://http://www.bunri-kaisei.com>  
文理開成高校Facebookページ  
<https://www.facebook.com/bunrikaisei>  
東京大学三四郎会  
<http://www.facebook.com/todaisanshiro>



先生とランチミーティング



先生から学校の概要や目標を伺う

## 19. 農家に泊まろう！～農林業のフロンティア・みなかみで一次産業の可能性を考える～

群馬県利根郡みなかみ町において農業と民泊体験を行った。限界集落と呼ばれる町内の藤原地区への滞在体験や、夏祭りの手伝いとマラソン大会の開催補助、里山整備体験を行った。地域の伝統的な仕事である林業は苦境を極めている一方、みなかみ町は東京からの旅行者や移住者も一定数おり、町が行っている観光施策には魅力がある。観光の主な柱としての農家民泊・林業体験・アジア圏観光客の誘致などについて町役場や商業関係者の方々にヒアリングを行い、農業、林業、観光など町の経済を複数の柱で支える取り組みを探り、人口の多少に拠りすぎない町の未来を考える経験となった。

日 程： 2018/8/16(木)-8/26(日)

参加学生： 4名

活動場所： 群馬県利根郡みなかみ町

備 考： 一般社団法人みなかみ町体験旅行 <http://www.m-tr.jp>

自伐型林業について-NPO法人自伐型林業推進協会

<http://jibatsukyo.com/about/>

東京大学三四郎会 <http://www.facebook.com/todaisanshiro>



藤原湖マラソン前夜祭での屋台運営



受け入れ先の方と

## 20. JICAの国内研修現場で国際協力を知る

発展途上国の国家公務員に、日本で先進事例を学ぶ研修を提供しているJICA東京センターにおいて「大気汚染」をテーマにした「課題別研修」へ参加した。8か国の研修員が参加したこの研修を通して、各国のカントリーレポート発表、講義への感想や研修終了後の質問票の結果を分析して研修への効果や改善点などをまとめて発表を行ったところ、センター内での共有を求められるほどの評価を頂いた。加えて期間中、日本文化理解のための狂言上演やJICAの広報発信を体験したことで、硬軟両面から国益に繋がる国際貢献について考える機会となった。

日 程： 2018/8/30(木)-9/5(水)

参加学生： 2名

活動場所： JICA東京国際センター(渋谷区西原)

備 考： JICA東京国際センター

<https://www.jica.go.jp/tokyo/>



大気汚染に関する研修に参加



JICAでの最終報告会

## 21. 誰も知らない京都を作り出せ！ ～東大生しかつけない旅行プラン@KYOTO～

京都府与謝郡与謝野町で行われている「若者と謝野大学」の運営に関わり、人口マイナス16パーセント減を抱える町の人口をどのように戻していくか、町の活性化を担う観光プランを提案するために地蔵盆、農園体験、鹿肉の解体を手伝いながら人や場所を辿って地域の大人のみならず子供達からも話を聞いていった。その中で与謝野町にしかないものは住人たちであり、住人を観光資源として、その人たちに会いに町へ行くというプランを計画した。誰かと助け合えることや、人との繋がりを実感し着目することで、気付かない町の魅力の一つ発見して伝えることができた。

日 程： 2018/8/17(金)-8/22(水)

参加学生： 1名

活動場所： 京都府与謝郡与謝野町

備 考： 一般社団法人PLACE <https://www.place-design.jp/>

<https://www.facebook.com/place.yosano/>

東京大学三四郎会 <http://www.facebook.com/todaisanshiro>



地藏盆の準備の手伝い

## 22. 「好き」だけで終わらせない！ ～自らの手でファッションの未来を創ろう～

オンワード樫山社での業務体験を他大学の学生と一緒に参加した。一週目はアパレル業界で行われている業務について講義を受け、実際の店舗での接客体験を行った。二週目は前週に学んだことを活かしながら、会社の持つ強みと伸びしろがある部分を分析し「新規ビジネスの提案」を行った。参加者は同社が海外で別業種に出店していることに着目して、宿泊業とのコラボレーションで更に価値が売れると提案した。マーケティングは人口動態など社会全体のことを同時に調べながら販売戦略を立てるなど、購入する側からは見ることの出来ない内部の業務のお話を伺う貴重な機会となった。

日 程： 2018/9/3(月)-9/14(火)

参加学生： 3名

活動場所： 株式会社オンワード樫山、東京都内

備 考： 株式会社オンワード樫山 <http://www.onward.co.jp/>  
東京大学三四郎会 <http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



新規事業提案のプレゼン

## 23. 生態系・自然環境を守るとは？ 自然保護を現場から考える

「自然環境保全」とは具体的にどのような活動が行われているのか、二つの組織を訪れて野外調査に同行しながらお話を伺った。緑生研究所では、建設や工事予定地の周辺環境の生物調査結果を提出する「環境アセスメント」についての説明を受け、植物標本の同定、植物モニタリング調査、昆虫調査と生物種リストの作成を体験した。日本自然保護協会では、市民の行うセミの抜け殻調査へ参加した。調査も決して楽なものでは無いが、開発を進める際に環境アセスメント結果を活用することは容易ではなく、時には折衝も求められる。しかし、自然保護業務に携わる方々の、自身の仕事に誇りを持ちながら楽しんでいる姿勢は非常に印象的なものとなった。

日 程： 2018/8/7(火)-9/15(水)、各自定められた1週間

参加学生： 3名

活動場所： 東京都内、関東近郊

備 考： 株式会社 緑生研究所 <https://www.ryokusei-ri.co.jp/>  
自然観察指導員東京連絡会 <https://www.nacsj.or.jp/>  
東京大学三四郎会 <http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



同行調査の報告

## 24. 教員の働き方改革における課題と解決策を考える

昨今問題化している教員の長時間労働について、業務量の把握と種類の整理を行うことで軽減できる可能性を探るべく、参加者が業務改善アドバイザーとして、杉並区の教育委員会にてヒアリングを行った。加えて杉並区内の小中学校の校長、副校長、教員の方々に直接現状を伺う機会を得て、まず教員自身が働き方を確認できるシートを作り、それを見て自分で生活を見直せる形を理想とした。手間や時間が掛かりやすい業務のあぶり出しや、業務外に活かせる時間が見えたとともに、気持ち良く仕事が行えるための工夫について考える機会となった。

日 程： 2018/8/28(月)-9/1(金)、9/11(月)-9/15(金)

参加学生： 3名

活動場所： 東京都内

備 考： 杉並区教育委員会の小林淳氏の記事  
<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20170601-00000007-wordleaf-soci&p=3>  
東京大学三四郎会 <http://www.facebook.com/todaisanshiro>

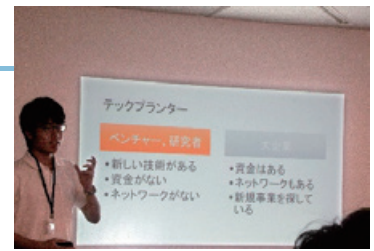


先生にヒアリング

## 25. 科学技術大国ニッポンの未来を担う知識プラットフォームでの武者修行！

参加者3名が異なるテーマ(科学教育、ビジネスと科学の関わり、研究者のキャリア)に取り組み、社内で関連する業務を行っている方々をそれぞれメンターとして、1. YouTubeで子供向けの科学実験教室、2. A.新規事業をやりたい資金のある企業、B.資金を求める新しい分野の技術に取り組むベンチャー企業、C.アイデア実現化に向けた構想を支える自治体や機関、の3者のマッチングイベント、3. 博士研究者が関わるスマート農業をそれぞれ見学した。研究結果を社会で活かす場合、段階毎に様々な人と関わるための協力や交渉力が必要なこと、大学で得た知識を学外で活用する際の幅広い選択肢を知ることができた良い機会となった。

日 程： 2018/8/20(月)–9/19(水)、各自定められた2週間  
参加学生： 3名  
活動場所： 株式会社リバネス、東京都内  
備 考： 株式会社リバネス <https://lne.st>  
東京大学三四郎会 <http://www.facebook.com/todaisanshiro>



マッチングイベントの報告

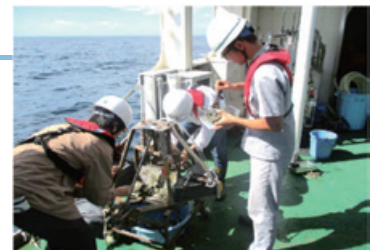


スマート農業の報告

## 26. 測量船による海洋観測実地体験

海上保安庁海洋情報部の測量船に約2週間乗船し、乗員の方と生活を共にしながら、測量船が行っている業務を学んだ。海洋汚染調査のための採水・採泥作業については、一部実施に参加した。観測作業以外にも、操船、推進機関の管理等の業務について説明を受けたり、食事の準備を担当するなどの活動に従事した。海洋観測の重要性と共に、普段の生活では得がたい知識を習得することができた。

日 程： 2018/8/31(金)–9/12(水)  
参加学生： 2名  
活動場所： 日本近海  
備 考： 海上保安庁海洋情報部 <http://www1.kaiho.mlit.go.jp/>



採泥実習



操舵体験

## 27. 犯罪被害者支援に関する事業の実施

犯罪被害者に、法律・生活・心理面等の支援を行う全国被害者支援ネットワークで、支援の実態について学んだ。また、検察庁、警視庁の被害者相談室が実施している支援制度や全国被害者支援ネットワークとの連携についても知識を得ることができた。犯罪被害者支援の構造を学び、その構築と運営に携わる多くの関係者の努力を知ることができた。犯罪被害者に対する支援のあり方に視野を広げると共に、被害者と加害者の両側面からの犯罪のとらえ方や、社会・報道のあり方について考察し、自身の目指す方向性についても改めて考えを深めた。

日 程： 2018/9月–12月  
参加学生： 1名  
活動場所： 東京外国語大学本郷サテライト6F、都内  
備 考： 公益社団法人 全国被害者支援ネットワーク  
<http://www.nnvs.org/>

## 28. 地域密着型再生可能エネルギー系ベンチャー企業でのインターン@東北

太陽光発電、熱循環プラントといった再生可能エネルギーの利活用を進めているサステナジー株式会社で、実際に行っている事業について学んだ。また、事業の計画、評価資料の作成などを行った。再生可能エネルギーの利活用については、可能性と共に、多くの問題が存在することを知った。組織の中で働くということ、地域に対する貢献、得た情報に対して評価をするということ、事業を行う上で考えなければならないことなど、活動を通して多くを学ぶことができた。

日 程： 2018/7月-9月、各自定められた2週間程度

参加学生： 3名

活動場所： 岩手県、宮城県、東京都内

備 考： サステナジー株式会社 <http://sustainergy.co.jp/>  
環境エネルギー普及株式会社 <http://kankyo-energy.co.jp/>  
おひさま株式会社 <http://ohisama-corporation.jp/>

## 29. 学術成果の国際発信を現場で体験：あなたも UTokyo FOCUS 編集部の一員に！

広報の基礎を学び、東大の公式イベントの調べ上げ、他大学のInstagram運営のリサーチ、SNS企画提案、進行中のSNSにおける研究紹介の日本語訳などを通し、大学における広報がどのようなものか、その片鱗を知ることができた。また、Today to Texas (TTT)の最終選考に残っていたプロジェクトの2チームに取材をし、原稿を書き上げる機会に恵まれた。取材をとおして得た知見と感動は、今後の自分の進路に役立つものとなった。

日 程： 2018/8月-9月、2019/2月-3月  
各自定められた週3日程度

参加学生： 2名

活動場所： 本郷キャンパス（安田講堂4F）

備 考： UTokyo Research（日本語）  
<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/utokyo-research/>  
UTokyo Research（English）  
<http://www.u-tokyo.ac.jp/en/utokyo-research/>



取材

## 30. 今地方の企業が面白い！地域に根づく中小企業の魅力に触れるシゴト旅

石川県能登地域内で活動を行った。地域の中で光る施策を行っている5社に訪問を受け入れていただき、会社の概要や社員インタビューをして、更なるニーズの発掘や改善点に対して学生の視点から提案を行った。社員の方々から能登地域や日々の業務への思いを直接伺うことで、仕事に対する熱意ややりがい「所属する地域の一員としての貢献」という意識の上にあること強く感じられたことが新鮮であった。今回の体験を通して、仕事、働くこと、地方に対して実感とともに捉えることができるようになった。

日 程： 2018/9/11(火)-2018/9/14(金)

参加学生： 4名

活動場所： 石川県能登地域

備 考： 株式会社御祓川 <http://notoryugaku.net/>



七尾市で集合した参加メンバー



恵寿総合病院理事長からのお話

### 31. 加賀温泉郷まるごとキャンパス体験

加賀市内にある片山津、山中、山代の三箇所の温泉に1日ずつ滞在しながら各地での宿泊や街歩き、入浴を実際に体験した。加えて加賀市職員の方の先導のもと、加賀南部地域、加賀市内の橋立保存地区を訪れ、加賀市の観光戦略について市役所、旅館、観光業など立場を超えた職業に携わる複数の方々から講話を頂いた。最終日は、「指定された予算内でアイデアを企画する」という事前課題に、講話や実際の視察の中で感じた部分を問題提起と観光立案アイデアにまとめた発表と市役所若手職員と意見交換を行った。



市役所でのディスカッション準備

日 程： 2018/8/6(月)-8/9(木)

参加学生： 8名

活動場所： 石川県加賀市

備 考： 加賀市 <http://www.city.kaga.ishikawa.jp/>  
加賀温泉郷観光情報サイト KAGA旅・まちネット  
<http://www.tabimati.net/>  
加賀四湯博 <http://omotenashi.ladykaga.me/>



街並みを歩く

### 32. カンキツの収穫・販売体験から中山間地域の底力を考える

瀬戸内海に囲まれた江田島市は、県庁所在地の広島市からほど近い「住みやすい離島」として知られている。期間中、江田島市の農家宅でホームステイをしながら、江田島市での柑橘類収穫の農業体験だけでなく、島を取り巻く社会課題についても実地で考える機会を得た。中山間地域と呼ばれる江田島市では人口減少、農業後継者の減少に直面しているものの、島民の方々は島の現状を敏感に、正確に捉えており、県外から同市に移住した地域おこし協力隊の方々、江田島出身の若手実業家達から、島の持つ問題の分析や現状打破に向けての取り組みを伺った。過疎、高齢化という言葉だけでは実際に地域で動いている人たちや物事の全体像について知ることができないこと、また実情の把握、問題の分析、解決には幅広い知識や異なる職業の人たちの知恵、積極的な協働が求められるのだと痛感する経験となった。



収穫方法の説明

日 程： 2019/3/16(土)-3/21(木)

参加学生： 2名

活動場所： 広島県江田島市

備 考： ファーム竹本 <https://sites.google.com/site/farmtakemoto/>



振り返りミーティング

### 33. 文化ワークショップを基本とした過疎・高齢地区のまちづくり体験プロジェクト

子供達へ地域への誇りを育て、大人になっても富良野で住み続けたり、戻ってくる気持ちを持ち続けられることを目指して一般社団法人が行っている、ワークショップの運営補助を体験した。「白い服プロジェクト～麻・まち・アート～」の展示準備、プログラミング教室、料理作り、ラジオ放送に参加し、大人も子供も混じって教え合ったり、作業を行う中に飛び込んだ。大学で学んだことを教えて自分の技術が喜ばれる嬉しさや、子供達の柔軟性に驚くとともに、人の繋がりができていくことによって富良野の地域が支え合っている様子は大変新鮮であった。



料理のワークショップ

日 程： 2018/8/31(金)-9/3(月)

参加学生： 4名

活動場所： 北海道富良野市

備 考： ふらのみらいらぼ <https://www.facebook.com/630286103789616/>  
(一社)富良野デザイン会議 暮らしステーション  
<http://kurashi-s-furano.x0.com/>



「白い服プロジェクト」展示

## 34. おじゃり申せ種子島！ 宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム

種子島は鉄砲伝来の地であり、JAXAの種子島宇宙センターがあり、観光や漁業、農業といった産業があり、スマートエコアイランド構想実証も行うという多面性をもっている。活動では、このような多面性を様々な活動を通して、体験し、学んだ。島の多くの方とふれあい、普段の生活では体験できない感動を味わった。プログラムの最後に、これからの種子島のあり方について考察を行い、発表を行った。種子島の事、地方自治の事、自分自身への気づき等多くのことを体験したプログラムとなった。

日 程： 2018/8/16(木)-8/24(金)  
参加学生： 8名  
活動場所： 鹿児島県西之表市(種子島)  
備 考： 種子島観光協会 <http://tanekan.jp>  
西之表市役所 <http://www.city.nishinoomote.lg.jp>



鉄砲祭に参加



種子島高校

## 35. おじゃり申せ種子島！ 宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム(冬編)

種子島は人口構成問題などについて、日本の50年先をいっていると言われていいる。産業構造、スマートエコアイランド構想などから、その現状を読み取り、問題点を考察するプログラムであった。個人の興味に合わせて、サトウキビ産業を体験したり、住民のための公共施設や交流に参加した。また、JAXA宇宙センターの見学をしたり、小学校や高校を訪問して、若い世代と交流した。プログラムの最後に種子島の政策について、市長、副市長、教育長らと意見交換をした。

日 程： 2019/1/29(火)-2/6(水)  
参加学生： 7名  
活動場所： 鹿児島県西之表市(種子島)  
備 考： 種子島観光協会 <http://tanekan.jp>  
西之表市役所 <http://www.city.nishinoomote.lg.jp>



サトウキビ収穫体験



政策意見交換

## 36. 農業・牧場作業体験@北海道

農業体験では、メロンの箱詰め、かぼちゃやキャベツ、枝豆、スナップえんどうの収穫をした。観光客向けの農業体験ではなく、地元の人と同じように農作業ができたので、現地の生活を正に実体験することができた。牧場では、牛や羊の餌やり、餌作り、搾乳、体重測定、堆肥の収集、除角や去勢など様々な体験をした。牧場作業は心から楽しかったが、牛一頭を仔牛から出荷できるまでに育てるのにとてつもない手間がかかっていることを目の当たりにし、普段食べている肉も感謝して食べるようにしたいと実感した。

日 程： 2018/9/3(月)-9/14(火)、2019/3/4(金)-3/15(金)  
参加学生： 8名  
活動場所： 北海道中川郡美深町  
備 考： 美深町 <http://www.town.bifuka.hokkaido.jp/>  
美深観光協会 <http://www.bifuka-kankou.com/>  
松山農場 <http://mf.tarupon.com/>  
農事組合法人ミナミランチ <http://minami-ranch-beef.ftw.jp/>



仔牛への餌やり



ワカサギ釣り



### 37. どっぷりディープな農業・漁業体験(DDNG)

農業体験では、牧草の種まきや藍の除草と収穫、選別と袋詰め、キュウリやリンゴ、梨の収穫などを行った。農産物を生産するのにどれほどの苦勞をしているかを学び、食のありがたみを深く感じた。役場では、町内における農業の現状を伺い、少子高齢化に悩む日本の農村が直面する危機が、自分達が思うよりも切迫した問題であることがわかった。一方、都市とは違う農村独特のゆったりとした時間の流れを体感し、砂浜から見た夕陽や最終日に屋根の上から見た満天の星は、一生忘れないだろう。



藍の収穫

日 程： 2018/8/27(月)–9/3(月)  
参加学生： 5名  
活動場所： 青森県深浦町  
備 考： 青森県深浦町 <http://www.town.fukaura.lg.jp/>



白神山地登山

### 38. 希望学プロジェクト ふくい体験プログラム(池田町)

福井県池田町は町を挙げて、「循環型農業」と「木育」に取り組んでいる。プログラムでは、農業を実際に体験したり、食を中心とした町おこし事業に参加したり、木育施設を見学した。いままで知らなかった地方自治の取り組みを学べ、住民の方の町おこしにかかる意欲や一体感を感じ取ったことで、地方自治のあり方やひいては自身の将来について考えた密度の濃い活動となった。

日 程： 2018/8/14(火)–8/17(金)  
参加学生： 6名  
活動場所： 福井県池田町  
備 考： <https://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-033070-1.html>

### 39. 中山間地域を見る・感じる・考える～北海道鷹栖町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう

北海道のほぼ中央、旭川市に隣接する鷹栖町で、中山間地域を知り、生活を体験し、地域の課題を考える1週間の活動であった。実際に町を訪れてみると、抱いていたイメージとは違い、人々のあたたかさや行政と暮らしの近さを強く感じた。また、定住促進の取り組みとして町が行っている、福祉・子育ての関連施設を見学したり、農業研修施設など訪問した。最終日には、住民でない者からの視点を交えた鷹栖町の魅力と共に、町の施策に対する提言について、プレゼンテーションを行った。

日 程： 2018/8/24(金)–8/30(木)  
参加学生： 4名  
活動場所： 北海道鷹栖町

## 40. 都内でも農林作業フィールドワーク体験

始めに、ハス園の見学とハスの品種について学び、ドローンによる最先端の生育調査実験や大豆を使った対照実験の耕地を見学した。次に、水田の有機栽培区と慣行栽培区での捕虫を種類ごとに数え、農薬が与える影響を知った。演習林では、「スローライン」という道具を使って枯れ枝の伐採を行い、当たり前のように使っている公園や森林が、日々の管理のお陰であると改めて気づかされた。最後に、果樹の収穫と糖度計測、その分析を行った。実験や研究が、実際の農作業へいかに還元されるか、その意義や目的と大切さを学んだ。

日 程： 2018/8/1(水)

参加学生： 3名

活動場所： 農学生命科学研究科附属生態調和農学機構・田無演習林

備 考： 東京大学農学生命科学研究科附属生態調和農学機構

<http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/index.shtml>



スローライン作業



ブドウの収穫

## 41. 伝統工芸木炭生産技術保存会とともに伝統工芸に必要な駿河炭を焼く

初日は備前船刀剣博物館に行き、職人の作業を見学し、研磨炭の用途や製法について学び、金属板を研磨する作業を体験した。2、3日目は笑楽窯で炭焼きの作業を体験し、炭焼きの一連の流れや白炭と黒炭の違い、焼く窯の違いなどを学んだ。最終日は、地域の歴史について学び、松炭用に植林された植栽地を見学した。笑楽窯や伝統工芸保存会、地域の皆様との交流の機会が豊富で、様々な知恵を授かり、視野を広げることができた。

日 程： 2019/3/10(日)－3/13(水)

参加学生： 5名

活動場所： 岡山県

備 考： 伝統工芸木炭生産技術保存会 <https://www.mokutanworks.com/>

笑楽窯 <https://www3.hp-ez.com/hp/sumikama>



機械での薪割り



白炭焼成

## 42. 熊本サプライズプロジェクト U-tokyo

「復興」と「ブランド化」をテーマに、熊本県内の各所を回り、行政やNPO、企業、仮説住宅などを訪問し現地の皆さんの生の声を聞くことができた。教科書上の事件でしかなかった水俣病が、リアリティを持ったものとして感じられた。不振だった黒川温泉の発展や、水俣が環境モデル都市に成長できた背景には、将来ありたい姿を考え、それをコミュニティ全体で共有し現在何をすべきかを考え、実行してきたことが大きかったのだと実感した。「ありたい姿の明確化」の重要性を新たに学んだことは、最大の収穫だった。

日 程： 2018/8/3(金)－8/9(木)

参加学生： 6名

活動場所： 熊本県

備 考： 水俣病資料館 <http://www.minamata195651.jp/>

黒川温泉 <http://www.kurokawaonsen.or.jp/>



阿蘇農業体験



県庁でくまモンと職員の皆様と

### 43. 聖地熊野の歴史文化と自然を体験しつつ、新宮市の文化行政を学ぶ

世界遺産 熊野古道の踏破や歴史・宗教・文化・自然環境保護の取り組みを4日間で体験し、観光を中心とした地方自治の取り組みについて、学んだ。また、地元の方や、普段お会いすることのない山伏の方との交流を通して、コミュニケーションの重要性を学んだ。文化行政について考察し、市長や教育長と意見交換を行った。熊野のもつ多面的な可能性を体験し、考えることのできた活動となった。

日 程： 2018/8/30(木)-9/2(日)  
参加学生： 10名  
活動場所： 新宮市、那智勝浦町、紀伊田辺市



熊野古道



新宮市の方々と

### 44. 山羊、豚、牛、馬の世話と乗馬を体験しよう

附属牧場では、そこで飼育されている豚、牛、ヤギ、馬と触れ合いながら、飼養衛生管理実習を行った。豚の射精の様子を観察したり、牛は搾乳の器具取り付け、ヤギは爪切りなどを行い、乗馬やパワーショベルとトラクターの運転も体験した。近隣の酪農家と養豚農家も見学し、附属牧場とはまた異なった、機械化され大規模化された畜産についても学ぶことができた。更に、実際の体験活動で得た知見を生かし、各自が生産コストの計算を行い、非常に充実した体験を堪能した。

日 程： 2018/8/8(水)-8/10(金)  
参加学生： 4名  
活動場所： 東京大学附属牧場  
備 考： 附属牧場 <http://www.bokujo.a.u-tokyo.ac.jp/>



ヤギのお世話



養豚農家の見学

### 45. 癒しの森の森林管理～おじいさんは山へ柴刈りに～

演習林の森林管理の一環として落ち葉焚きを行い、その落ち葉焚きを通して、富士癒しの森研究所に関わる人達との交流の機会を持った。まず、林内の落ち葉を集め、翌日は小雨の中、朝から落ち葉焚きを行った。木々が湿っていたため火が付きにくかったが、割り箸や小さい枝を燃やしてから、大きな枝や薪を入れ火を大きくした後落ち葉を焚いた。森林に関わっている人達との交流や、初めての落ち葉焚きは、とても楽しく貴重な体験となった。

日 程： 2018/12/22(土)-2018/12/23(日)  
参加学生： 1名  
活動場所： 東京大学附属演習林富士癒しの森研究所  
備 考： 富士癒しの森研究所  
<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/fuji/>



落ち葉焚き

## 46. 森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー

森林の区分、区画測量、伐採木の選択、伐採監護など、北海道演習林での業務の一通りの流れを体験し、スノーモービルとスノーシューで冬の山に分け入ることは新鮮な経験であった。また、山や木に対する感度が格段に向上し、先進的な取り組みに挑戦し、持続的な山と人の関係を築こうとする文化が育まれている演習林で、森林と人の理想的なあり方に触れることができたのは大きな収穫だった。

日 程： ①2018/9/25(火)-10/4(木)、  
②2019/3/4(月)-3/8(金)、③3/11(月)-3/15(金)  
参加学生： 3名  
活動場所： 東京大学附属演習林北海道演習林  
備 考： 北海道演習林 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/hokuen/>



胸高直径測定

## 47. 伊豆の体験活動ー南伊豆というー地域との連携に学ぶー

10月の活動では、南伊豆地域で問題となっている猪、鹿による被害について話を伺い、捕獲した猪を有効活用するためにソーセージを作り、後日駒場祭で販売し、プログラムの趣旨や獣害問題について来場者に紹介した。3月の活動では、雑木の伐倒・玉切・薪割りやヒノキ林の列状間伐を体験し、チェーンソーや林業機械の操作も体験した。現在の林業の取り組みや今後の展望を伺い、日本の林業に対する大きな可能性を感じ、認識を改めた。

日 程： 2018/10/5(金)-2018/10/8(月)、  
2019/3/22(金)-2019/3/25(月)  
参加学生： 5名  
活動場所： 静岡県南伊豆町近郊  
備 考： 樹芸研究所 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/jyugei/>



イノシシ肉の切り分け



腸詰め作業

## 48. 北海道の遺跡博物館における学芸員体験と冬のオホーツク文化体験

常呂実習施設の熊木教授に北海道の先史文化について講義を受けたあと、北見市内や近隣の資料展示施設を見て、模擬展示解説を行った。講義や見学で理解したつもりでも、実際に「来訪者に分かるように工夫しながら正しく伝える」ということの難しさを学んだ。また、収蔵品を博物館等で展示できる形にするために、膨大な資料を一つ一つ確認して整理するという地道な手順を垣間見て、その業務補助を行う経験もできた。加えて地域の方々と懇談を持つ機会もあり、北見市常呂町という地域の魅力に触れた体験も掛け替えのないものとなった。

日 程： 2019/2/19(火)-2/22(金)  
参加学生： 5名  
活動場所： 人文社会系研究科附属常呂実習施設、北見市ところ遺跡など  
備 考： 常呂実習施設 <http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tokoro/index.html>  
北見市「ところ遺跡の森」 <http://www.city.kitami.lg.jp/docs/7209/>



遺跡博物館

## 49. 地域イイトコ発見プロジェクト ～フィールドワークから学ぶ地域の健康～

地元の住民宅の訪問や地区散策、イベントへの参加を通して地域の「イイトコ」を探った。地域を理解するには、単なる観察者として地域を調査するだけでは不十分で、地域の中に溶け込んで、その中で調査する必要があることを実体験で学んだ。地域の今後を考える際に、住民が主体的に動いて生活しながら行政に働きかけるボトムアップのやり方は現実的でないと思っていたが、それを実践している久野地区の動きは、とても勉強になった。学びの意味でも、人生経験の意味でも、実に得るものが大きかった。

日 程： 2018/9/5(火)-9/14(木)  
参加学生： 3名  
活動場所： 島根県雲南市  
備 考： 雲南市 <http://www.city.unnan.shimane.jp/unnan/index.html>



コテージでの共同生活



地域の皆様の前での発表会

## 50. 被災地福島 of 農業と環境放射能を知るツアー

被災地福島は復興の途上にあり、多くの困難を抱えている。福島を実際に訪ね、農業やいまなお残る汚染の姿を自身の目で確かめた。また、土壌を採取し、学内の機器を使って、放射線量を計測した。見聞きし、体験したことが報道などで伝えられている姿と違うことを感じた。いまなお続く困難を自分自身で確認したことにより、対策の難しさについて、思いを巡らせた。一方で、コミュニケーションの大切さも痛感するなど、考えることの多い体験活動となった。

日 程： 2018/7/31(火)-8/1(水)  
参加学生： 5名  
活動場所： 福島県、農学生命科学研究科  
備 考： <http://www.agc.a.u-tokyo.ac.jp/wp/fg6/>



原発周辺の海



土壌採取

## 51. 保育園を拠点とした地域づくり：「まちの保育園」の取り組みに学ぶ

待機児童や保育士不足など、首都圏の保育園にまつわる問題が報道されるようになって久しいが、これらの問題が深刻ではない地域もある。参加者は自身の育った地域の保育や、自らの認識との比較も行いながら活動を進めた。都内を中心に先進的な取り組みをしている「まちの保育園」の園長先生から概要を伺い、施設や環境を見学した。続いて、ダイバーシティ政策を推進している渋谷区において、保育行政担当の方々に保育政策における企業との取り組み、情報発信についてお話を伺い、それらの活動をポスターにまとめて発表を行った。

日 程： 2018/9/6(木)-9/7(金)  
参加学生： 3名  
活動場所： 本郷キャンパス、都内の保育園(小竹向原、六本木、吉祥寺)  
備 考： 発達保育実践政策学センター  
<http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/>



シンポジウムでのポスター展示



園長先生からお話を伺う

## 52. 演習林の教育研究を支えよう！ ～日本最初の大学演習林で体験する3つの縁の下～

演習林で活動を行うための基盤となる歩道の整備作業を体験した。初日は鋸と鉋を使い資材となる杉の木を切り倒し、資材を搬出した。2日目はそれらの木材を杭や横木に加工し、実際に道作りに取りかかった。整地を行い、杭を打ち立て、横木と杭を鉄線で固定することで階段を作っていた。何もないところに道を作り出すという「無」を「有」にする経験ができ、その場にあるものを利用し創意工夫して目的を達成することの喜びを知った。実に濃密な体験となった。

日 程： 2018/8月から9月上旬の各自定められた日程  
参加学生： 3名  
活動場所： 東京大学附属演習林千葉演習林  
備 考： 千葉演習林 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/chiba/>  
千葉演習林フェイスブック  
<https://www.facebook.com/509050409292447/>



歩道の階段作り



歩道の階段作りに使用する杭作り

## 53. 中世が輝く島根県益田市「歴史を活かしまちづくり」観光企画 プロジェクト～世界を動かした中世のシルバーラッシュの源「石見」体験～

島根県益田市は中世に繁栄し、歴史的遺物が豊富に残る都市である。体験活動は、まちづくりの核となる「中世」をキーワードとした観光プロジェクトを企画することを最終目標として行われた。実際に益田市を訪れる前に、東京大学史料編纂所で益田家文書の実物を閲覧し、中世の暮らしや習慣について学んだ。益田市では、医光寺、雪舟庭園、七尾城などを見学したり、すでに行われているプロジェクトについて学んだ。こうした現地での経験を基に、学生の視点から新たな観光プロジェクトを企画し、益田市に提案した。益田市の皆さんとの温かい交流は、活動終了後も続くものとなった。

日 程： 2018/8/20(月)-9/16(木)、各自定められた日程  
参加学生： 3名  
活動場所： 島根県益田市  
備 考： 益田市 <https://www.city.masuda.lg.jp/site/kanko/>  
益田市観光協会 <http://masudashi.com/>



医光寺



七尾城跡からの益田市の眺め

## 54. 森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験 ～世界の水文研究を支える90年を全身で感じよう～

愛知県瀬戸市の生態水文学研究所で行われている作業内容と、その学術的意義についての講義を受けた後に赤津研究林へ移動し、研究所の教職員の手ほどきを受けて作業体験を行った。作業内容は林内の葉や花実の採取と同定、種子選別作業、雨量・水量などの気象観測、UAVを利用した写真測量、丸太の呼吸量測定、豊田・大洞試験地での土砂量測定と林内ダム白坂堰堤からの砂出しなどから、測量方法の実用化に向けた試行、最新の技術や呼吸量や測量など結果が即目に見えて分かる調査まで多岐にわたった。作業に関わったことで森林保全への意識を強めるとともに、演習林で行われている業務や研究内容への理解を深める機会となった。

日 程： 2018/9/3(月)-9/6(木)、9/25(火)-9/28(金)  
参加学生： 3名  
活動場所： 赤津研究林(愛知県瀬戸市北白坂町)  
備 考： 附属生態水文学研究所 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/eri/>

## 【海外プログラム】

### 01. 中国訪問 + キャンパスツアーと学生交流

企業訪問では、通信機器メーカーのHUAWEIや、ディスプレイ生産企業のBOEなど世界的な競争力のある大企業や、近年急激に成長するベンチャー企業を訪問し、中国のトップ企業は技術力によって競争力を高め、世界市場においてその地位を高めていること、それゆえに研究開発職を重視していることを実感した。大学訪問では、清華大学・北京大学・復旦大学の3校を訪問し、競争社会のなかでトップ大学に進学してきた学生達との交流は刺激にあふれ、貴重な体験となった。

日 程： 2019/3/18(月)-3/27(水)  
参加学生： 10名  
活動場所： 中華人民共和国 北京、上海  
備 考： 東大北京校友会・上海銀杏会  
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/interact/list.html>



バイトダンス



清華大学での交流会

### 02. 上海および上海近郊の地方都市を中心とした国際交流体験活動

中国の経済発展と技術革新、中国と日本の法規制・国民性・各新技術の導入といった点での違いを目の当たりにし衝撃を受けた。日本ではまだ浸透していないQRコード決済が、中国では当たり前のように使用されており、怒涛の建設ラッシュを目にすると、中国の成長鈍化を報じるニュースが嘘のように感じられた。中国、上海という地域を徹底的に体感し、現地の人々と腹を割って話す機会は、「日本人は～。中国人は～」といった先入観がいかにも偏見に満ちているのかを終始考えさせられる機会となった。

日 程： 2019/3/17(日)-3/27(水)  
参加学生： 10名  
活動場所： 中華人民共和国 上海と近郊  
備 考： 上海銀杏会・東大北京校友会  
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/interact/list.html>



映像制作会社「和の夢」の皆様と



復旦大学にて

### 03. 大学・企業・文化体験 in 韓国2018年 — 韓国を知る、韓国から日本を見る —

全ての活動において、五感を通して体験することで、「韓国を知る」ことができた。ソウル大生との交流では、領土問題や慰安婦問題を含む日韓関係など、様々な課題について議論をし、日本と韓国は社会として抱える問題も、人々の考え方や生活様式もとても近いこと、しかしその一方で歴史という点で大きな違いを抱えていることに改めて気付いた。政治的なレベルだけでなく、私達若い世代が交流を進展させ、共通点に着目して協働することで、両国関係を次の段階に進めることができると強く感じた。

日 程： 2018/8/21(火)-8/29(水)  
参加学生： 10名  
活動場所： 大韓民国 ソウル  
備 考： 在韓東京大学総同門会、ソウル東大  
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/interact/list.html>



ソウル大学生との交流



ソウル大学日本人教員との会食

## 04. シンガポールでビジネスを学んでみよう

東大OB・OGが在勤の計23もの企業・法律事務所・教育機関・行政機関などを訪問し、日本では聞くことのできない非常に貴重な話を伺った。シンガポールという国家の実像、日本企業の拠点の機能、シンガポールにおいて多国籍企業で働くことのリアルなど、あらゆることを学んだ。現在、シンガポールの経済成長率は鈍化し、東南アジア各国の大都市が求心力を高めている中で、多民族共生の無理が不満を蓄積させているといった暗部も知ることができたのは、大きな収穫となった。日本はこの国から何を学ぶべきなのかと考えさせられた。



Salesforce.com

日 程： 2018/9/8(土)-9/16(日)  
参加学生： 7名  
活動場所： シンガポール  
備 考： 淡星会 <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/interact/list.html>



P&G

## 05. 医学と平和

現地の病院、NGO/NPO、国際機関、企業等でインタビューを行った。医療関係者、大学関係者、医学生等と交流を行い、様々な問題点を話し合った。都市部と山村地域を訪問し、医療設備や文化の違い等を学んだ。活動を通して、医療、政治、経済、文化等の関わりや影響について深く考察する機会となった。また、現地で実際に見聞したことは、限られた情報から得た知識を超えるものであり、それぞれに必要とされるものを考えるには、地域の特性を理解することやコミュニケーションが重要であることを実感した。こうした経験を通して、改めて自身の興味や方向性、これから発展させていきたい事などを考えることができた。

日 程： 2018/8/1(水)-8/8(水)  
参加学生： 5名  
活動場所： ミャンマー  
備 考： 東京大学大学院医学系研究科国際地域保健学教室  
<http://www.ich.m.u-tokyo.ac.jp/>

## 06. 新興国インドでの体験活動 -インド赤門会との交流・インド工科大学(IIT)日本語授業サポート-

前半は、インド工科大学の日本語クラスに参加し、日本や東大を紹介するプレゼンテーションを行い、日本文化紹介のイベントではお互いの文化を共有し理解を深めた。後半は、日系企業を訪問したり世界遺産であるアジャンタ・エローラを見学し、建造に要された時間や労力、そして建造を可能にした権力の大きさに圧倒された。今後インドのような国家が台頭する世界で、世界はどのように進んでいくのか、その世界で日本は何を武器にし、どのように生き残っていくのか、その日本社会の中で自分は何をしたいのか、すべきなのか、と問い直すきっかけとなった。



IITB日本語クラスの学生との交流会

日 程： 2019/2/11(月)-2/19(火)  
参加学生： 7名  
活動場所： インド ムンバイ、インド工科大学  
備 考： 東京大学大学院 工学系研究科日本語教育部門 <http://www.jlcese.t.u-tokyo.ac.jp/>  
インド赤門会 <http://www.indiaoffice.dir.u-tokyo.ac.jp/akamonkai/index.html>  
インド工科大学ボンベイ校 <http://www.iitb.ac.in/>



オーランガバードでのイスラム建築見学



## 07. スリランカでSDGsフィールドワーク体験 “SDGs Field work experience in Sri Lanka”

新興国におけるSDGs (Sustainable Development Goals) の取り組みを、スリランカを訪問して学んだ。現地ではRuhuna大学、Paradeniva大学、国際機関等を訪ね、SDGsの取り組みについて話を伺ったり、意見交換を行ったりした。また、スリランカの歴史的名所、熱帯林、農村、紅茶工場を見学し、スリランカについても学んだ。実際に行き行って学ぶことで、スリランカについての知識を得ると共に、自分と社会の関わり、政治などについても改めて視野を広げることができた。



ルフナ大学

日 程: 2018/8/25(土)-9/1(土)

参加学生: 6名

活動場所: スリランカ

備 考: ルフナ大学 University of Ruhuna <http://www.ruh.ac.lk/>  
ゴール旧市街世界遺産 <http://whc.unesco.org/en/list/451/>  
シンハラージャ森林保護区 <http://whc.unesco.org/en/list/405>



Stilt fishing

## 08. Healthy Humpbacks (ザトウクジラの健康調査)

ザトウクジラの個体数は一旦回復をみせたものの、近年感染症やけがが等により、増加に停滞が見られる。アースウォッチが主催するプログラムでは、学生は研究者の手伝いをするボランティアとして参加し、クジラの活動、健康などの観察やデータ収集を行った。調査は陸上と船上で行われ、間近にクジラを見ることができた。プログラムには様々な国からボランティアが参加し、活動はすべて英語で行われた。クジラの生態や自然保護の知識を得て、海洋汚染など環境問題について考察し、国際交流と多文化の多様性を認識するなど様々な経験を積むことができた。

日 程: 2018/8/30(木)-9/2(日)

参加学生: 2名

活動場所: オーストラリア Moreton Bay

備 考: 認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン  
<http://www.earthwatch.jp/index.html>  
[http://www.earthwatch.jp/about\\_us/images/ewj\\_2016report\\_web.pdf](http://www.earthwatch.jp/about_us/images/ewj_2016report_web.pdf)

## 09. TOPS2018 (Tokyo Oxford Programme of Summer 2018)

最初の2週間はオックスフォード大学で古典学と法学の講義を受け、最高裁判所や法曹の育成施設を見学した。3週目は、オックスフォード生によるチュートリアルを体験し、課題のエッセイやプレゼンテーションに取り組み、4週目は、ケンブリッジ大学・エジンバラ大学を訪問し、最終プレゼンテーションを行った。学業には真摯に取り組んできたと思っていたが、まだまだ足りていないことがわかった。イギリスと日本の違いについては特に考えさせられ、今後グローバル化が進んでいくこの世界で、日本が勝ち残っていくための方法を模索し続けたいと感じた。



美術館での授業風景

日 程: 2018/8/5(日)-9/3(月)

参加学生: 10名

活動場所: イギリス オックスフォード大学、他

備 考: オックスフォード大学 クライスト・チャーチ  
<http://www.chch.ox.ac.uk/>



Broughton Castleにて

## 10. 英国ロンドン、海外で働くとは

ロンドンを中心とした東大OB・OGが在勤の12社と2大学を訪問した。それぞれの企業・大学では、オフィス見学やグループディスカッション、質疑応答等を行い非常に有意義な時間を過ごした。その中で、現在の日本の立ち位置について話を伺い、「日本が持つ独自の価値について見直すべきだ」ということを学んだ。「沈みゆく国」と形容されることさえある日本について悲観的な見方をしていたが、悲観する前にもっと日本の持つ独自の良さについて学び、日本に誇りを持つべきであると感じた。

日 程： 2019/2/25 (月)–3/1(木)

参加学生： 8名

活動場所： イギリス ロンドンおよび近郊

備 考： 英国赤門学友会

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/interact/list.html>



PwCでのディスカッション



日立レール車両基地

## 11. フランスÉcole Polytechniqueにおける研修(理系)

フランスの高等教育機関Grandes Écolesの一つÉcole polytechniqueの寮に寄宿しながら、学生たちが社会との関係性や、高等教育機関で受けた貴重な教育をどのように社会に還元するか考えながら勉学に励む姿を見て感銘を受けるとともに、数学・哲学・批評・議論の重要性、法治の下における平等性についてもルームメイトや学生間交流で本音で意見交換を行うことができた。また、本学出身のÉcole polytechnique郡山准教授によるオーガナイズの元、Synchrotron SOLEIL、セーブル陶磁都市、パスツール研究所、IPVF、CNAF、Cabinet Plasseraud、UNESCO、フランス赤門会などの訪問をさせて頂き、各機関で勤務されている方からお話を伺い、将来のキャリアパスから、異国で働く視点を伺うことができたのも、得難い経験となった。

日 程： 2019/3/12(火)–3/21(木)

参加学生： 10名

活動場所： フランス パリ市内及び近郊

備 考： École polytechnique <http://www.polytechnique.edu/>  
欧州フランス赤門会

<https://sites.google.com/site/europeakamon/konshinkai>



École polytechnique折り紙サークルとの交流



セーブル陶器製造場を見学

## 12. VE\_italia・Veneto Experience

最初に、イタリアの一大観光地であるヴェネツィアにおいてスケッチやダイアグラムなどの方法を使って街を散策したのち、人口6000人の村アルティボレでカルロ・スカルパの建築物と対峙し、自己解釈を深めた。そしてヴェネツィアに戻り、再び見るヴェネツィアに対する自身の五感の変化について、プレゼンテーションを行った。その「場」が「なぜそのようになっているか」「設計思想」「対象の人々」「目的」を慎重に観察し、解釈しながら考えるという実地体験を通して、地域性や異文化、空間、建築、哲学、願い、知識、歴史、自分自身について、「街を通して模索し分析する」という貴重な体験であった。

日 程： 2019/3/13(水)–3/27(水)

参加学生： 9名

活動場所： イタリア ヴェネト州

備 考： Veneto Experience

<http://www.venetoexperience.com/>



参加メンバー

### 13. スウェーデン王立工科大学(KTH)での国際交流活動体験 日本語授業サポートと企業訪問

日本の働き方とは異なる習慣を持つスウェーデンの働き方を学んだことで、価値観が広がり、自分の分野に強いモチベーションを持ちながら取り組んでいるKTHの学生の姿に刺激を受けた。また、教授の話からは、「学問」に対する向き合い方や創造の原動力について深く考えさせられ感銘を受けた。日本語教室では、多くのスウェーデン人学生と類似点や相違点について話し合い、お互いの文化を理解し合い、文化交流の楽しさを実感し、親睦を深めた。



KTHでの日本語授業の補佐

日 程： 2018/9/10(月)–9/17(月)  
参加学生： 8名  
活動場所： ストックホルムとその近郊、スウェーデン王立工科大学  
備 考： 東京大学大学院工学系研究科日本語教育部門  
<http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>  
スウェーデン王立工科大学： <http://www.kth.se/>



KTHの中庭

### 14. サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動

午前中はアラビア語の授業を受け、午後はプリンセス・ヌーラ大学の学生との交流や、日本大使館、MiSK財団、エネルギーリサーチセンターのKAPSARCを訪問し、学内や学外の散策、リヤド市内の観光なども行った。日本人には想像しにくい国に足を踏み入れ、そこで育った学生に国の現状や彼女達の話聞くことで、「サウジアラビア」という国の輪郭がはっきりと見え、訪問先では現在国の中でどのような事業が展開されているのかを鮮明に知る機会となった。異なる価値観の背景も含め理解することの大切さを、身にしみて感じる濃密な体験となった。



アラビア語の授業の最終日

日 程： 2018/9/7(金)–9/16(日)  
参加学生： 5名  
活動場所： サウジアラビア リヤド  
備 考： プリンセス・ヌーラ大学  
<http://www.pnu.edu.sa/en/Pages/Home.aspx>



リヤド市内の記念公園

### 15. アラブ首長国連邦の「いま」：沸騰都市ドバイ、未来都市マスカール、石油都市アブダビ

ドバイとアブダビにある日系メーカー、石油開発企業、商社や国際協力銀行、日本大使館などの政府系機関を訪問した。また、アブダビのUAEの技術開発を担うマスカール科学技術大学(MIST)、ハリファ大学、再生可能エネルギー開発に携わる国際機関「国際再生可能エネルギー機関(IRENA)」を訪問し、現地の大学生との交流や研究者による講義を受講し、意見交換を行った。

日 程： 2018/9/3(月)–9/12(水)  
参加学生： 6名  
活動場所： アラブ首長国連邦・アブダビ首長国(マスカール市、アブダビ市、アルアイン市)、ドバイ首長国  
備 考： 東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻  
<http://www.ee.t.u-tokyo.ac.jp/~nakano/lab/>  
東京大学大学院新領域創成科学研究科国際協力学専攻  
<http://inter.k.u-tokyo.ac.jp/>

## 16. ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション

ハーバード大学医学大学院とその周辺の関連病院で研究をしている東大卒業生を中心とした研究者の方々、大学教授、臨床医、大学院生など合計15名の方々を訪れた。現在取り組んでいる研究といった専門的なことから、日米の研究環境の違いや共通点、英語の勉強方法や実際の生活まで具体的なこともお話し頂いた。研究者の方々が米国で研究生活を送るようになるまでのキャリアパスも様々で、米国への研究留学や就職という目標に対して大きく指針が示された経験となった。



花井先生とのランチにて

日 程： 2018/8/17(金)-8/24(金)

参加学生： 6名

活動場所： アメリカ ボストン

備 考： ハーバード大学医学部 <http://hms.harvard.edu/hms/home.asp>



梅森先生と堀尾先生と梅森研究室にて

## 17. GTL Summer Intern for Systems Method Experience at MIT

マサチューセッツ工科大学で夏季に実施されているMITsdm(システムデザインマネジメントコース)において、午前中は講義の聴講、午後は講義の運営補助や演習の物品管理等を行った。コースは職業経験を前提とするものだったため、受講生は世界各地の様々な分野で働く40代のエンジニアが中心で、学びを社会に還元させることや自身のビジネスの拡大を目標に熱心に授業や課題に取り組んでいた。授業を通してシステムデザインマネジメントへの理解が深まったことに加え、受講生から学び続ける意義や議論を促進させるための場としての「大学」の持つ役割に気付かされる体験となった。

日 程： 2018/8/20(月)-8/24(金)

参加学生： 1名

活動場所： 柏キャンパス、アメリカ ケンブリッジ

備 考： GLOBAL TEAMWORK LAB <http://gtl.k.u-tokyo.ac.jp>  
<http://gtl.mit.edu/>

## 18. アメリカで仕事をする事の素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう

シカゴでは、在シカゴ総領事館や弁護士事務所、シカゴ大学、Chase bank、豊田工業大学、KPMGなどを訪問し、ワシントンDCでは世界銀行、IMF、三菱重工、日本国大使館、IDB (米州開発機構)などを訪問した。現在の職業に至る経緯や仕事内容、日々感じていることなどを伺い、学生の興味関心や進路などについても意見をいただいた。アメリカと言えば実力主義というイメージが強かったが、人と人との関係の上にビジネスや合意形成が成り立つということ、人脈・コネが大事で人としての魅力を持つことの大切さを学んだ。



シカゴ大学

日 程： 2018/8/8(水)-8/14(火)

参加学生： 10名

活動場所： アメリカ シカゴ市、ワシントンDC周辺

備 考： シカゴ赤門会・さつき会アメリカ

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/interact/list.html>



三菱重工

## 19. コロンビア大学所属東大卒業生の教授、研究者、学生を訪問・ディスカッション

コロンビア大学やニューヨーク市立大学の様々な分野で活躍されている、東大出身の教授や研究者、大学院生を訪問し、専門分野やキャリアについての話を伺い、ディスカッションも行った。アメリカで学ぶこと・働くことのメリットだけでなくデメリットも含めて率直な話を伺い、日本を客観的に見る視点を身につけることができた。日本はアメリカから見ると小さな国であり、経済が縮小傾向にあり影響力も下がっていることを再認識したが、将来の指針となり話を伺い濃密な時間を過ごすことができた。

日 程： 2019/2/25(月)-3/1(金)  
参加学生： 10名  
活動場所： アメリカ ニューヨーク州  
備 考： コロンビア大学 <http://www.columbia.edu>



ニューヨーク国連本部



卒業生製作映画の上映会

## 20. ニューイングランド有機農場 での Community Supported Agriculture 体験 (米国)

毎日8時から5時まで農作業に従事し、有機農法で手をかけて育てられている作物の栽培に関わった。この農場の経営の軸となる「消費者も生産に関わる」というコンセプトのもと、多くの人が作業に関わっていた。その人達との交流を通して、「食」が土や光の段階から流通を経て消費者の口に届くまでの過程を、垣間見ることができた。また、大学のOB・OGや多様なフィールドで働く先輩と語り合う機会も持った。テント泊で朝から晩まで文字通り寝食を共にした経験はかなり稀有で、もう得られない一度きりの体験だろうと強く思った。

日 程： 2018/8/18(土)-8/31(金)  
参加学生： 4名  
活動場所： アメリカ コネチカット州  
備 考： NY銀杏会 <http://www.ny-ichokai.org/>  
The Hickories <http://www.Thehickories.org/>



天ぷらパーティーの準備



農場での最終日

## 21. オーガニック農場 での Sustainable agriculture 体験(米国)

一日の流れは、6時半から農作業を開始し、1時に作業が終了し、昼食、自由時間、9時頃就寝という流れで、毎週火曜日は農場でマーケットがあり、お客さん対応や販売を行った。完全に手作業で行う農作業は初めての経験で、その大変さを身に染みて感じたが、仕事を終えた後の達成感と喜びは大きかった。2週間農場でホームステイを体験し、英語力の向上だけでなくホストマザーの地球保護の考え方を学び、「海外×農業」という異色の組み合わせを体験できたことは、今後の活動に多大な影響を与えた。

日 程： ①8/4(土)-8/18(土)、②8/18(土)-9/1(土)、  
③9/1(土)-9/15(土)  
参加学生： 9名  
活動場所： アメリカ ニュージャージー州  
備 考： NY銀杏会 <http://www.ny-ichokai.org/>  
Orchard Farm Organics <http://orchardfarmorganics.org/>



農場の人と



ホストマザーと

## 22. 世界の情報発信の中心地、ニューヨークの脈動を体感してみよう

全員で訪問する全体プログラムと、各自が企画した自主運営プログラムの2つを軸に活動を行い、証券会社、証券取引所、弁護士事務所、金融機関、国際機関、大学などを訪問した。ビジネスや国際交流の最前線で活躍されている諸先輩の話は大変刺激的なもので、自身のキャリアを考える上で大変有意義であった。また、諸先輩の共通するキャリア観に触れ、最初からどこで働くかで悩むよりも、与えられた環境でいかに自分が勝負できるかを考える方がよほど生産的であると気づかされ、この発見は直接話を伺ったからこそ、納得感を持って消化できると感じた。

日 程： 2018/9/4(火)-9/11(火)

参加学生： 12名

活動場所： アメリカ ニューヨーク州及びその周辺

備 考： NY銀杏会 <http://www.ny-ichokai.org/>  
International House <http://www.ihouse-nyc.org>



JETRO



NY証券取引所

## 【研究室プログラム】

### 01. 再生医療の研究開発に触れる

再生医療の研究開発現場を見学し、細胞培養、再生組織作成、動物への移植などを体験した。まず、ヒト耳介軟骨細胞の培養を行った。1週間の培養期間のあと、細胞を回収し、再生軟骨を作製・培養した。3週間の培養期間をおき、培養された再生軟骨をヌードマウスに移植した。4, 8週間後に移植片を回収し、パラフィンブロックにしたものを染色して画像を撮り、解析した。こうした一連の作業を、手本を見せてもらった後、自分でも作業を行った。臨床とは違う医療の現場に触れ、興味深い体験活動であった。

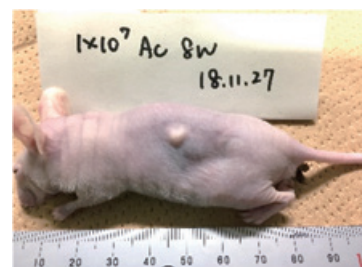
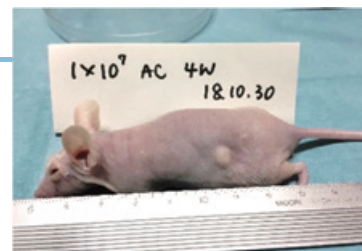
日 程： 2018/9/18(火)-10/30(火) の定められた日程

参加学生： 1名

活動場所： 東大病院分子ライフィノベーション棟

備 考： 東京大学大学院医学系研究科 セル&ティッシュ・エンジニアリング  
寄付講座

<http://square.umin.ac.jp/ct-e/t-e/index.html>



再生軟骨を移植したヌードマウス

### 02. 「医の知」に触れる—手術とは何か？体内臓器を探ってみましょう！

乳がん、胃がん、食道がんと国内ではまだ実施の少ない肥満手術を、研修医の解説を受けながら見学した。手術中の体内臓器を実際に観察し、摘出した臓器に触れ、図表や映像で見るとは違った柔軟性や大きさ、がん部位が正常組織と外見や感触でどのように異なるのかも体感した。内視鏡手術支援ロボット「da Vinci」を利用した食道・胃全摘手術では、術者の手際もロボットの精巧さも目を見張るものがあり、医学と工学の連結を目の当たりにした。

日 程： 2018/7/31(火)-8/2(木)

参加学生： 5名

活動場所： 本郷キャンパス 医学部附属病院

備 考： 東京大学医学部附属病院 消化管外科学

[http://www.h.u-tokyo.ac.jp/patient/depts/ses\\_md/index.html](http://www.h.u-tokyo.ac.jp/patient/depts/ses_md/index.html)



手術着でお世話になった先生と



お世話になった先生とカンファ室で

### 03. 先端的蛍光イメージング技術を用いた脳科学・神経科学研究体験

超解像度顕微鏡を実際に使用して神経伝達の際の細胞放出の反応を蛍光させて可視化することを目的として、参加者それぞれが興味を持った方向から蛍光イメージングに取り掛かった。研究室の先生方に指導して頂きながら、ラットの好塩基球性白血病細胞を利用した顆粒球の細胞外への放出、マウスの海馬の断面図の抗体染色、グルタミン酸受容体の発現などの蛍光プローブによって単発、連続、同時などの蛍光が起こった。自分が準備をした細胞片が蛍光する様子を実際に観察するという興味深い経験をすることができた。

日 程： 2018年度夏季休業中の各自定められた日程

参加学生： 4名

活動場所： 東京大学大学院医学系研究科 神経生物学教室

備 考： 東京大学大学院医学系研究科 脳神経医学専攻 神経生物学教室

<http://www.neurobiol.m.u-tokyo.ac.jp/>



廣瀬研究室の皆様と



まとめの研究発表

#### 04. 生体分子から動物個体まで～生物化学の研究体験

参加者は理学部生物化学科の4研究室に分かれて、分子の局在解析、細胞内タンパク質の検出とトランスポゾン発現量解析、あるタンパク質とその変異体の発現、精製、線虫を用いた神経機能研究などの実験を通して、本格的な研究の一端を体験した。実際の機材の使用方法や試薬の管理、実験準備の手順を教わる中で、実験前の段取りも十分な配慮が必要であることや、求める結果を得るためには複数の種類の実験が必要であることを学んだ。また研究を行っていく上で必要なこと、研究の種を萌芽させるためには幅広い教養や気づきが求められることを伺い、生物学研究への興味と知識を拓ける機会となった。

日 程： 2018/8/1(水)-9/11(火)の間の各自定められた1週間  
参加学生： 6名  
活動場所： 本郷キャンパス 理学部3号館、1号館、7号館のいずれか  
備 考： 東京大学理学部生物化学科  
<http://www.bs.s.u-tokyo.ac.jp/biochem/>



実験風景



ハエの仕分け

#### 05. 農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定

放射線と放射線測定の原理に関する講義を受けた後、実際に土壌を採取し、放射線の測定作業を行った。いろいろな測定器械を実際に使用することができたことは良い経験となった。また、理学的な側面だけでなく、研究室で行っている実験も人々の生活に関わってくることや、地道な調査を続けることの重要性を実感した研究室体験となった。

日 程： 2018/9/18(火)  
参加学生： 2名  
活動場所： 本郷キャンパス 農学部2号館アイトープ農学教育研究施設  
備 考： 東京大学農学部の復興支援  
<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/rpjt/index.html>

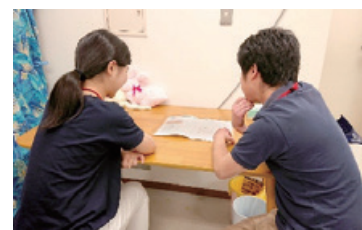
#### 06. 発達障害のある子どもを対象とした認知心理実験の現場体験

認知心理実験そのものを体験し、どのような実験をどのような目的で行っているかを学んだ。研究者や臨床心理士、実験に参加した子ども達や家族との交流の中で、現在の小中高生の様子や、自閉症の子どもがおかれている厳しい状況を知ることができた。同時に、様々なものを考え出す発想力などが垣間見られ、障害を抱える中でも大きな可能性、光を持っていることを実感した。基礎研究の重要性と厳しさを知り、その状況の中で地道に研究を続ける研究者の姿に感銘を受けた。

日 程： ① 2018/8/1(水)-8/11(土) ② 8/11(土)-8/21(火)  
③ 8/21(火)-8/31(金)  
参加学生： 3名  
活動場所： 駒場キャンパス 進化認知科学研究センター  
備 考： 東京大学大学院総合文化研究科  
進化認知科学研究センター  
<http://ecs.c.u-tokyo.ac.jp/>



子ども達が行う作業の説明



発達検査について解説



## 07. 脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い

参加学生は、心と身体の関係を解明し、良い状態に保つにはどうしたらよいか、といった課題について取り組む教育学部の各実験室の中から興味がある研究室を個々に訪ね、レクチャーを受けたり、実験に参加して、研究活動に参加した。実験のアプローチにもいろいろあること、文系の研究室でも理系的な経験をおこなっていること、自分のイメージだけでは読めない研究の多様性などを実感した。

日 程： 各自定められた日程  
参加学生： 6名  
活動場所： 本郷キャンパス 教育学部棟  
備 考： 東京大学大学院教育学研究科 身体教育学コース  
<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tkweb/>

## 08. クラスター計算機の試作と並列計算

計算科学の分野で核となる並列計算が実際にどう行われるかをソフト、ハードの両面で学ぶプログラムである。まず、パソコンを分解し、中のパーツの繋がり方を確認した。その後、パソコン4台をネットワークでつないで、クラスターを作成した。C言語のMPIライブラリを使用して、CG法による並列計算を実装し、計算速度を比較した。何日もかけてクラスター計算機を完成させたこと、並列計算のやり方を理解できたこと、ネットワーク知識、CG法など多くの事を学べた上、大学院の研究がどのようなことを行っているか知った体験活動となった。

日 程： 2018/9/12(水)-9/21(金)  
参加学生： 1名  
活動場所： 柏キャンパス 環境棟 新領域創成科学研究科 人間環境学専攻 奥田研究室  
備 考： 東京大学大学院新領域創成科学研究科 人間環境学専攻 奥田研究室  
<http://www.multi.k.u-tokyo.ac.jp//>

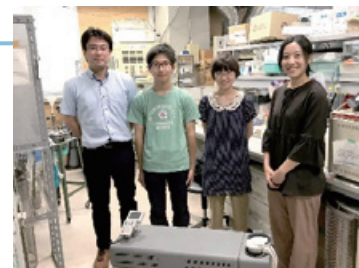


パソコンを分解

## 09. 環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ

生物由来資源(バイオマス)の超臨界処理について、研究室の講師や大学院学生の説明を受けながら実験を行った。今まで知識のみだった超臨界水酸化反応によるメタノールの酸化分解や高温高圧水中の固体塩基触媒反応によるグルコース変換などを実際の装置を使って実験したことで、自身の現在学んでいる内容と組み合わせる新たな技術を生み出すという目標が叶うのではないかと希望を抱くこともできた。今後も研究を進める際に一つの方法として超臨界処理を加えることで自身の研究の更なる展開が望める機会となった。

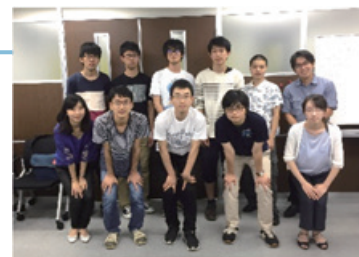
日 程： 2018/8/27(月)-8/30(木)  
参加学生： 2名  
活動場所： 柏キャンパス 新領域環境棟  
備 考： 東京大学大学院新領域創成科学研究科 環境システム学専攻 大島・秋月研究室 <http://www.oshimalab.k.u-tokyo.ac.jp>



秋月研究室の皆様と

## 10. 演習環境をもちいたサイバーセキュリティ体験活動

2日間の活動期間のうち、各日でテーマを分けて座学と演習を行った。1日目はIoT(Internet of Things)について概論の講義を受けたあと、機器への侵入操作を試した。ハッキングが成功した達成感と同時に、侵入の容易さや初期パスワードを継続利用することで起こる事態への恐怖を覚えた。2日目は深層学習を利用したAIによる画像での個人識別について学び、現在の識別技術がかなりの精度であることを演習を通して実感した。デジタル機器の利用は生活に必須となってきた以上、共通知識として求められる内容に実機を通して触れる機会となった。



SISOC研究室の皆さんと

日 程： 2018/8/21(火)-8/22(水)  
参加学生： 8名  
活動場所： 東京大学大学院情報学環 SiSOC TOKYOオフィス(八重洲)  
備 考： 東京大学大学院情報学環 セキュア情報化社会研究寄附講座  
<http://sisoc-tokyo.iis.u-tokyo.ac.jp/>

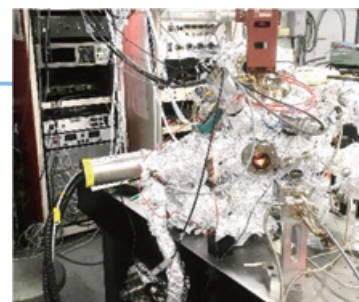
## 11. 光学・量エ系研究室短期体験

研究室に一定期間滞在し、研究室で行われるイベントにも参加し、在籍する研究生達との交流を通して、研究者としてのキャリアなどにも視野を広げた。研究室全体の打ち合わせやミーティングに参加したり、文献検索や調査などに携わるほか、大学院生とペアを組み、指導をうけながら研究や調査などにも関わった。研究内容についての短いプレゼンテーションも行い、知識を増やすことができた。授業選びや受講に対しても、その先に研究があることを見据えるようになり、学業に対する意識の面でも変化があった。

日 程： 2018/8月-9月 2週間  
参加学生： 1名  
活動場所： 駒場IIリサーチキャンパス生産技術研究所  
備 考： 東京大学生産技術研究所 光物質ナノ科学研究センター 志村研究室  
<http://qopt.iis.u-tokyo.ac.jp/pub/index.html>

## 12. 量子力学・表面科学短期体験

ポスドクの指導を受けながら、表面科学の実験を行った。見慣れない実験装置を使うため、最初は手順を覚えることが精一杯であったが、最終的には自分で操作を行って実験を行えるようになり、データを集めて分析し、セミナーという形で発表を行った。研究室がおこなっていることや、物理学そのものに対しての見識や理解が深まったように感じた。



実験装置

日 程： 2018/8月-10月の定められた10日間  
参加学生： 1名  
活動場所： 駒場IIリサーチキャンパス生産技術研究所  
備 考： 東京大学生産技術研究所 基礎系部門 福谷研究室  
[http://oflab.iis.u-tokyo.ac.jp/Main/home/home\\_j.html](http://oflab.iis.u-tokyo.ac.jp/Main/home/home_j.html)

### 13. 水循環・水資源研究短期体験

最初に自分の興味から研究テーマを設定し既存のデータを基に統計解析を行った。その後も2、3週間に一度先生と、方向性や先行研究などについて話し合った。研究がある程度形となったので、学術誌への掲載を目指して、続行することとなった。この体験を通して、自らの手でデータを分析し、その結果をについて考察を深めることを楽しいと感じ、研究の深さを体感した。今後の進路を考える上でも大変貴重な体験となった。

日 程： 2018/8月-12月  
参加学生： 1名  
活動場所： 駒場IIリサーチキャンパス 生産技術研究所 沖研究室  
備 考： 東京大学生産技術研究所 沖研究室  
<http://hydro.iis.u-tokyo.ac.jp/indexJ.html>

### 14. DO-IT(Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology) Japan 2018 夏季プログラム

DO-IT Japan夏季プログラム参加者はチューターとアテンダントとして運営に関わった。このプログラムでのチューターはスカラー(プログラム参加生徒)の話し相手になり、アテンダントはスカラーのヘルプや介助を行う役割である。スカラーは一人一人障害や得意・不得意分野が異なるため、どのような関わり方が求められるのか模索しつつも、実際にスカラーと接して言葉を交わす中で、自分の中にある先入観や、健常者としての無意識的なバイアスに気付き、自分の視点について新たに見つめ直す機会となった。また、他者への配慮について、より深く考え意識を新たに持つ経験となった。

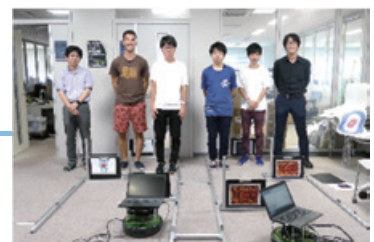


スカラーの中学生と

日 程： 2018/8/5(日)-8/9(木)  
参加学生： 4名  
活動場所： 駒場IIリサーチキャンパス 東京大学先端科学技術研究センター  
マイクロソフト株式会社 品川本社  
備 考： DO-IT Japan <http://doit-japan.org/>

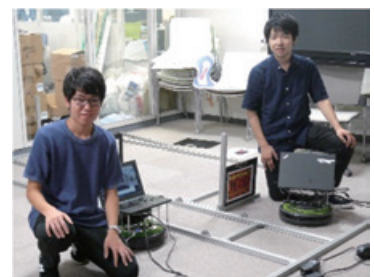
### 15. 知能移動ロボットの行動と制御

一般的に販売されている床掃除ロボットを利用し、設置された障害物をかわしてゴールまで辿り着かせることを達成点としてプログラミングを行った。障害物を画像認識して避ける、プログラミング通りに動かすという2点が想像以上に複雑で難しく、システムが指示通りにミス無く動くことが当たり前だと思っていた今までの認識を覆された。一般的に、製造現場やサービスの分野においてロボットはシステムに沿って動作しているが、それがどれだけの工夫と試行錯誤の上に成り立っているか、物作りや技術の裏側にある時間や工程にも思いを馳せる貴重な体験となった。



太田研究室の皆さんと

日 程： 2018/8/20(月)-8/24(金)  
参加学生： 2名  
活動場所： 柏キャンパス 総合研究棟  
備 考： 東京大学人工物工学研究センター 移動ロボティクス研究室  
<http://www.race.u-tokyo.ac.jp/otalab/index-j.htm>



研究室にて

## 16. 植物バイオテクノロジー体験

---

マメ科植物に根粒菌を接種し、形成された根の内部に細胞内共生が成立している様子を観察し、植物が微生物との共生により窒素を獲得していることを学んだ。また、細菌や植物の扱い方、実験器具の操作方法を合わせて身につけた。植物を中心とした生物間相互作用を理解することで、注視されている持続的社会的構築につながる農業技術開発の重要性を知り、理系・文系の枠を超えて様々な知識を得ることの重要性を感じた。

日 程： 2018/8/27(月)-9/14(金)

参加学生： 4名

活動場所： 弥生キャンパス 生物生産工学研究センター

備 考： 東京大学 生物生産工学研究センター

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/biotec-res-ctr/>

### Ⅲ 体験活動プログラム活動報告会

2019年3月1日（金）、本郷キャンパス山上会館2階大会議室にて、体験活動プログラム報告会を開催した。プログラムに参加した学生、学生を受け入れた学外関係者及び本学教職員等約100名が出席した。

学生スタッフ2名の進行で開会した。まず五神 真総長より、体験活動は限定した領域の中で知識を深めていくことになる専門課程へ進む前、あるいはそれと並行して、自分自身の関心を広げ、体験しながら学ぶチャンスであることと、学生に様々な活動の機会を与えてくださった受入関係者への謝辞が述べられた。



司会担当の学生スタッフ



五神総長の挨拶

続いて、体験活動プログラムの発展に顕著な功績のあった団体に感謝の意を表し功績をたたえる「特別功労賞」授与が行われ、受賞の上海銀杏会様、淡星会様、ハーバード大学医学部所属東大卒業生有志様へ記念楯が贈られた。



特別功労賞授与の様子



特別功労賞授与の様子

参加学生による活動報告の前に、本学教育学研究科の石井 悠紀子が大阪市の体験活動プログラムに同行し、観察やインタビューを行った結果から考察した体験活動プログラムの効果・評価を報告した。



教育学研究科 石井悠紀子



会場の様子

続いて、5つのプログラム(イギリス「TOPS2018 (Tokyo Oxford Programme of Summer 2018)」、北海道「高校魅力化プロジェクト～超人口減少・少子高齢化・財政難の離島中山間地域で学習支援と課題発見・解決～」、スリランカ「スリランカでSDGsフィールドワーク体験 “SDGs Field work experience in Sri Lanka”」、熊本「熊本サブライズプロジェクト U-tokyo」、韓国「大学・企業・文化体験 in 韓国2018年－韓国を知る、韓国から日本を見る－」)に参加した学生が、体験活動から学んだことや将来に活かしたい経験等について報告した。

学生の報告終了後、プログラム関係者からコメントをいただいた。「TOPS2018」では人文社会系研究科・文学部の葛西康德教授、「高校魅力化プロジェクト」では株式会社Prima Pinguinoの羽鳥圭氏、「スリランカでSDGsフィールドワーク体験」では社会連携本部卒業生部門の森和博ディレクター、「熊本サプライズプロジェクト U-tokyo」では、熊本を応援する東大生・東大卒業生有志の村尾昌大氏、「大学・企業・文化体験 in 韓国2018年」では、東京大学ソウル国立大学事務所の藤井千文が学生を受け入れた感想などをお話された。



「TOPS2018」



「高校魅力化プロジェクト」



「スリランカでSDGsフィールドワーク体験」



人文社会系研究科・文学部 葛西康德教授



株式会社 Prima Pinguino 羽鳥圭氏



熊本を応援する東大生・東大卒業生有志 村尾昌大氏



「熊本サプライズプロジェクト U-tokyo」



「大学・企業・文化体験 in 韓国2018年」



東京大学ソウル国立大学事務所 藤井千文

最後に石井洋二郎理事・副学長より、体験活動プログラムの特徴である参加学生の変化、成長、困難への対応を客観的に評価する取組についての説明と、受入関係者への感謝の言葉が改めて述べられた。

報告会後の懇談会は、学内外の関係者が活動を振り返り、意見交換をする有意義な交流会となった。今年度の報告会及び懇談会を実施するにあたり、約15名の学生が当日の司会、受付及び会場案内などの役割を担い主体的に運営に参画したことは、本プログラムにおける成果の一つとなった。



石井洋二郎理事・副学長の挨拶



運営に携わった学生スタッフ

# 平成 30 年度体験活動プログラム報告会

日時：平成 31 年 3 月 1 日（金）  
15:00～

場所：山上会館 2 階大会議室  
（本郷キャンパス）

## 式 次 第

### 一．開 会

### 一．総長挨拶

【五神 真 総長】

### 一．特別功労賞授与

### 一．プログラム概要と効果

【石井 悠紀子 教育学研究科修士課程 1 年】

### 一．活動報告

◆TOPS2018 (Tokyo Oxford Programme of Summer 2018)

◆高校魅力化プロジェクト～超人口減少・少子高齢化・財政難の離島中山間  
地域で学習支援と課題発見・解決～

◆スリランカで SDGs フィールドワーク体験 "SDGs Field work experience in  
Sri Lanka"

◆熊本サプライズプロジェクト U-tokyo

◆大学・企業・文化体験 in 韓国 2018 年－韓国を知る、韓国から日本を見る－

### 一．理事挨拶

【石井 洋二郎 理事・副学長】

### 一．閉 会

# Hands-on Activities 2018

## Debriefing Meeting

Date: (Fri.) 1 March 2019, 15:00~

Place: Main Conference Room, 2F,  
Sanjo Conference Hall (Hongo Campus)

### Opening

### Message from the President

【Makoto Gonokami, President】

### UTokyo Award for Distinguished Contribution to the Hands-on Activities 2018

Summary and Evaluation      【Yukiko Ishii, 1<sup>st</sup> Year, Graduate School of Education】

### Presentations

- ◆ TOPS2018 (Tokyo Oxford Programme of Summer 2018)
- ◆ Rural High School Student Support Project- Providing study support, finding and solving problems to high school students in remote islands and mountainous areas impacted by depopulation, decreasing birthrates, aging and financial hardships
- ◆ SDGs Field work experience in Sri Lanka
- ◆ Visiting UTokyo Alumni -Seeing universities, companies and culture in Korea –Learning about Korea and seeing Japan from Korean perspective –
- ◆ U-tokyo Kumamoto Project

### Message from the Vice President

【Yojiro Ishii, Executive Vice President】

### Close



# 体験活動プログラム

Hands-on Activities

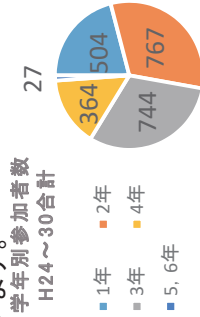
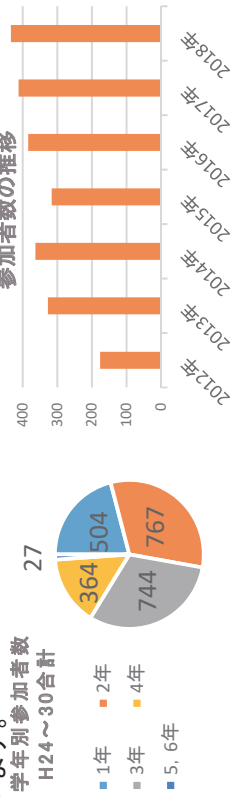


非公認キャラクター  
もりかも

## 体験活動プログラムとは

東京大学の学部学生が、今までの生活と異なる文化・価値観に触れるプログラムです。新しい考え方や生活様式を学び、「知のプロフェッショナル」に必要な基礎力である、自ら新しいアイデアや発想力を生み出す力を身に付けます。

東京大学独自のプログラムとして平成24年度から国内外問わず実施され、ボランティアなど社会貢献活動、国際交流、農林水産業・自然体験や地域体験、学内研究室体験など、多様なプログラムで構成されています。



有機農場ボランティア(アムリカ)



地域教育現場体験(北海道)



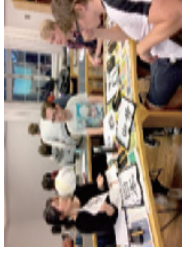
国内の畜産(附属牧場)



医療体験(東大附属病院)



書籍編集体験  
(東京大学出版会)



日本語授業サポート  
(スウェーデン王立工科大学)

## 参加学生の感想

離島の公営塾で高校生への学習指導を行った。高校生が学習成果の向上を喜んでいる姿や、「大学生生活」について話をしたときに、進路の選択肢としての進学を考え始めたような真摯な眼差しを見ることができ、充実した経験となった。(離島での学習支援)

実際に行われている手術の行程を見学した。特にダヴィンチというロボットを使った手術では、先生の操作とロボットの精巧さという医学と工学の連結を目の当たりにし、大変貴重な体験となった。(東大附属病院)

## 体験活動プログラムの効果

体験活動プログラムに参加する効果を、プログラム終了後に参加学生が提出する活動報告書に加え、東京大学教育学研究科教育心理学コースの大学院学生が行う質問紙調査による心理学的な成果測定、プログラムに調査者が参加・同行する参与観察、さらに面接調査により検証しています。

### 参与観察

フル・インクルージョン教育を実践する小学校でのゲスト・ティーチャー体験プログラム参加学生の変化を活動観察やインタビューから考察。  
⇒体験先への理解だけでなく自身の認識の変容という高次の効果も得られた。

### 質問紙調査による効果評価

体験活動の前後で、パーソナリティにおける「外向性」、情動知性の「幸福感」と「社交性」、精神的な回復力に関する「肯定的未来志向」が高くなるという変化が考えられる。



参加学生が活動について発表する報告会は、参加学生有志が同会や誘導を務めます。

**本プログラムは学生受入先の学内外関係者のご協力で成立しています。**

東京大学本部学生支援課 体験活動推進チーム

taikenkatsudou.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.htm>





MORIKAMO  
Unofficial mascot

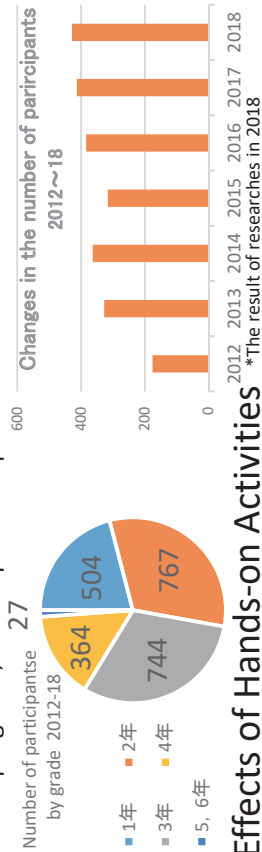
# Hands-on Activities



## What is "Hands-on Activities"?

The Hands-on Activities offer UTokyo undergraduate students chances to learn about new cultures and sets of values. Through the activities, students discover new ways of thinking and lifestyles, and acquire the skills to make new ideas by themselves, a requirement to be a "knowledge professionals."

The Hands-on Activities, one of original programs in UTokyo, started in 2012 and takes place in Japan as well as abroad, and consists of various programs and such as volunteer work, international experience, agricultural sciences and nature programs, on-campus lab experiences and so on.



## Effects of Hands-on Activities

We are researching into the impacts the Hands-on Activities has on the students using questionnaire based surveys and participant observation by graduate students majoring in educational psychology, in addition to report written by participants.

### questionnaire based survey

Some changes may be seen in the personality of being more "extrovert", the emotional intelligence may experience an increase in "happiness" and "sociability", as well as increase in the "future-oriented positive attitude" regarding the mental recovery power.

### participant observation

Changes in the students participating in the guest teacher experience program were observed during the on-site and interviews.

⇒ Understanding about the location of where the activity was taking place was obtained as well as a high level of transformation in their own perception.



Work experience at an organic farm (CT, USA)



Study support for high school student(Hokkaido, Japan)



Agriculture experience(Affiliated experimental station, Ibaraki, Japan)



Medical care experience (Affiliated hospital)



Editor experience (Todal publication)



Support-Japanese language class (Sweden)

### Participants reports

This experience left me feeling fulfilled. I felt joy in witnessing high school students being pleased by their study achievements. It was also rewarding to witness the students seriously considering enrollment into university as one possibility after I shared about "university life." <Study support for high school student in Hokkaido>  
I was able to observe real surgical procedures at the hospital. Out of all the surgeries observed, the opportunity to observe a surgical procedure using the surgery machine "da Vinci" was especially special. Witnessing the combination of medicine and engineering as portrayed by the surgeon operating a sophisticated robot system was a very valuable experience. <Observing Surgery at the University of Tokyo Hospital>



The debrief sessions where participants make presentations are run by the students themselves.

**Hands-on Activities is only possible with the support of the people who accept students.**

Hands-on Activities Support Team, Student Support Group, UTokyo  
[taikenkatsudou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:taikenkatsudou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp) 03-5841-2541/2542  
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html>





東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

平成30年度 体験活動プログラム活動報告

作成

令和元年7月

編集

東京大学 教育・学生支援部 学生支援課 体験活動推進チーム

住所

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

電話番号

03-5841-2541/2542

URL

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html>